

年報
2022 年度



東京医療保健大学 立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Tachikawa Faculty of Nursing

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing
(Disaster Nursing Program)

2022 年度 年報

目次

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・	1
1. 組織図	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 学内行事	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 入試状況	・ ・ ・ ・ ・	8
4. 教職員名簿	・ ・ ・ ・ ・	10
5. 委員会活動	・ ・ ・ ・ ・	12
6. 教育活動	・ ・ ・ ・ ・	18
7. 業績	・ ・ ・ ・ ・	48

巻頭言

2022年度は新型コロナウイルス感染症の大流行が続き、多数の感染波が発生した。この中で、ワクチン接種などウイルスへの対応力が向上し、アフターコロナに向けた経済活動の拡大や以前の日常の復帰が求められるようになった。一方で、感染状況のその時々において教育の方法も制限が課せられたが、本学の教育活動にはおおきな混乱は見られず、柔軟な対応が行われた。2019年からのパンデミック問題により、教職員が一丸となって教育の質を高めるための創意工夫や努力を積み重ねてきたからではないかと考える。

大学の中期計画は今年度から第四期に入った。全学の教学マネジメントにおいて、立川看護学部では学習内容・成果を可視化する過程の改善に取り組んだ。科目毎にディプロマサプリメントを重みづけの割合で示し、学生がディプロマポリシーと学修課程の連動を理解しやすいように履修系統図の見直しを進めることができた。教授方法においては本学部課題であるアクティブラーニングの充実に力点を置き、全領域で共通する看護過程の展開指導を全教員で共有しシラバスの改訂に繋がった。講義・演習内容では教育内容に応じて対面授業とオンライン講義・演習を組み合わせ、前年度課題とした学生の能動性を引き出すために、演習・実習オリエンテーションで患者理解を深める、管理の実際を理解する、学習内容に応じて学内実習に時間をかけて思考力を養うなど準備性を整え、学生が学内での学びを実習で意図して展開・統合できる仕組みを組み立てる工夫等、教員は課題解決に積極的に取り組んだ。

研究並びに社会貢献の面では、これまでの研究業績の積み重ねにより、今年度も多数の学術集会で発表や参加がなされた。特に2名の教員が学術大会長を務め、ハイブリット形式が一般的になってきた中でも感染状況に合わせた工夫が求められはしたが、多数の参加者を集めた。教育の課題や看護実践の課題に対する取り組み、社会に向けた学術的な提言など、数多くの発信がされ、大学としての社会貢献に大きく寄与した。なお、大会には、本学教職員の協力と東京医療保健大学の皆様のご支援ご指導を頂いており、大変感謝申し上げる。

また、研究外部資金助成の新規並びに継続研究の取り組み、今年度学長裁量経費では5件が採択されるなど教員の研究意欲は大変高いものがある。さらに、研究や実践報告での意見交換等で得た示唆を、学生の学習支援として取り入れる活動につなげ、他学部、実習施設との横連携にも展開し、活動が発展的に広がった。この他、教員の専門性においては、公開講座等の講演活動や演習・技術指導など、各方面からのニーズに応じて広く対応した。学部生のボランティア活動含め、諸団体並びに行政から高く評価され、立川警察署や立川市議会からの協力依頼、立川市ホームページに立川看護学部での学生の食育活動が地域の教育機関の代表例として紹介される等の好循環を招いた。立川市と東京医療保健大学の連携を背景に活動が広がり、地域における立川看護学部の位置づけへの影響を期待できる。

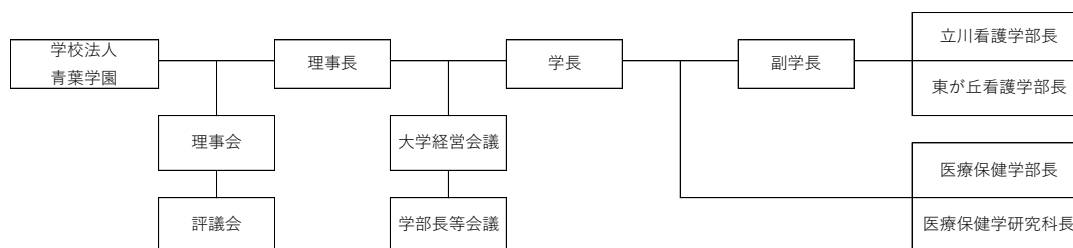
コロナ禍にあっても、教職員は積極性を持って取り組んでおり、通常の授業や学生支援にも忙しい中を大変努力して成果をあげた。次年度も中期計画に基づいて確実に行動していくこと、研究活動を推進し、さらに多くの活動や社会貢献に繋げていくことを期待する。

令和5年4月11日

立川看護学部 学部長

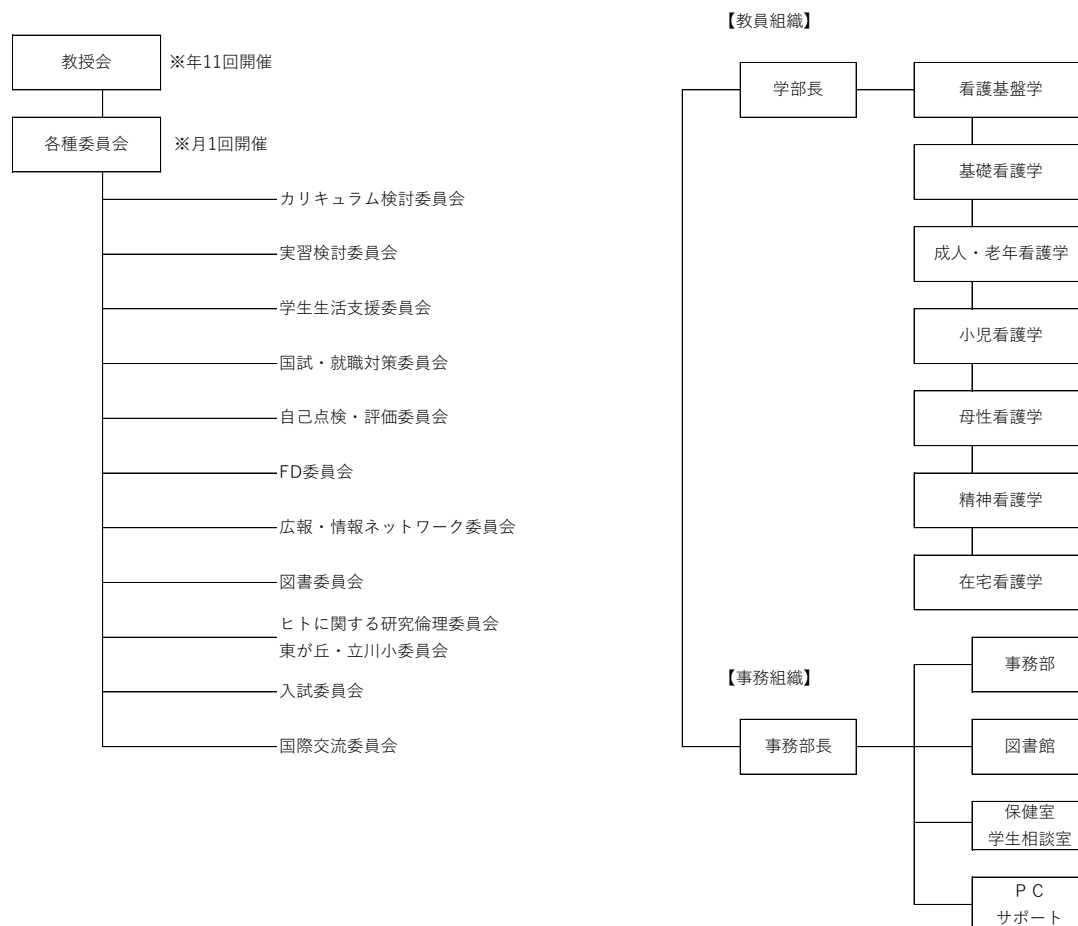
長 田 恵 子

1. 組織図



※大学経営会議：年5回開催
 ※理事会・評議会：年3回開催
 ※学部長等会議：年11回開催

立川看護学部 of 運営組織



2. 学内行事

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4 月

- 1 日 学内オリエンテーション(1～6 日)
新入生ガイダンス
- 4 日 健康診断
- 5 日 前期セメスター授業開始
- 6 日 入学式

5 月

- 5 日 新入生合宿研修(～5/7)
- 9 日 在宅看護学実習(～7/1)
- 30 日 看護学体験実習(～6/2)

6 月

- 17 日 スポーツ大会
- 20 日 来校型 6 月オープンキャンパス

7 月

- 4 日 看護過程展開実習(～7/15)
- 19 日 看護学統合実習(～7/29)
- 15 日 WEB オープンキャンパス(～8/30)

8 月

- 3 日 災害看護学実習(～6 日)
- 4 日 来校型 学科見学会
- 23 日 各論実習－母性看護学実習等
(～R5/2/3)
- 21 日 来校型オープンキャンパス
- 26 日 夏季休業開始(～9/30 まで)

9 月

- 2 日 災害訓練(中止)

【 後 期 】

10 月

- 2 日 入試説明会
- 3 日 後期セメスター授業開始

11 月

- 5 日 医愛祭(～11/6 中止)
- 13 日 学校推薦型入学試験(指定校・公募制)
- 29 日 老年看護学実習(～12/8)
- 30 日 個別見学会

12 月

- 1 日 開学記念日
- 7 日 個別見学会
- 13 日 卒業生との懇談会
- 14 日 来校型個別見学会
- 29 日 冬季休業開始(～R5/1/3)

1 月

- 24 日 一般選抜入学試験(A 日程)

2 月

- 3 日 看護師国家試験壮行会
- 4 日 一般選抜入学試験(B 日程)
- 7 日 就職支援講座
- 12 日 看護師国家試験日
- 13 日 日常生活援助展開実習(～2/24)
- 18 日 一般選抜入学試験(C 日程)

3 月

- 15 日 学位記授与式・修了式
- 26 日 春のオープンキャンパス

2-2. 7-8 月 来校型/WEB 版 オープンキャンパスのご案内(首都圏 看護学科)

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて来校型オープンキャンパスを開催いたします。キャンパスごとにプログラムは異なりますが、

模擬授業や体験企画などを行いますので是非、ご参加ください。ご来校いただいた方には 2023 年度版過去問題集（推薦・一般）の配布を致します。

来校型につきましては感染対策のため事前予約制とし、人数制限をさせていただいております。また、お越しになれない方向けに WEB 型での実施も予定しております。

【参加対象者】

- ・本学の首都圏 看護学科に関心のある高校生または既卒生。
- ・ご家族の付き添いは 1 名以内でお願いします。保護者の方のみのご参加はご遠慮ください。

※本イベントは事前予約制となっております、予約なしの当日のご参加はできません。

※来校の際は必ず不織布マスクの着用をお願いいたします。

【実施日時】2022 年 8 月 21 日(日)9:30～17:00

【コンテンツ】

学部学科説明、2022 年度入試結果&2023 年度入試概要発表、学生体験談、ミニ看護体験&模擬授業、クラブ・サークル体験、キャンパス見学ツアー

※「ミニ看護体験&模擬授業」は当日先着順で体験内容をお選びいただきます。

【WEB 型】

配信期間:7/15(金)12:00～8/30(火)22:00

各学部学科説明、2022 年度入試結果&2023 年度入試概要発表、学校推薦型選抜小論文対策講座、キャンパス紹介、サークル紹介、見る看護体験 模擬授業など

※看護学科ごとにオリジナル企画をご用意しております。

2-3. 8 月 来校型 オープンキャンパス

【概要】

五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパスにて、実施キャンパスごとに模擬授業、学生体験談、卒業生体験談など特徴のあるプログラムをご用意しております。是非ご参加ください。また、キャンパス見学なども予定しております。感染対策のため事前予約制とし、参加対象を制限させていただきます。

【参加対象者】

先着申込25組限定。

※高校3年生又は既卒生の方が対象となります。

※1組につき保護者の方は1名までとさせていただきます。

【来場時に注意事項】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当日はご自宅にて、参加される方全員の検温と健康チェックを行い、体調がすぐれない方や、体温37.5℃以上の方は来校をお控え下さい。会場では検温・手指消毒等のご協力をお願いしております。また、来校の際は必ず不織布マスクの着用をお願いいたします。

【日時】2022 年 8 月 4 日 (木) 13:00～14:00

【コンテンツ】

①学科紹介: 大学での学習内容や各看護学科の概要や特長を説明します。

②学内見学: 実習室や図書館、学生ホールなどを案内します。

③入試説明: 入試の概要、昨年度入試結果についてご説明します。

※見学会終了後の質疑応答も受け付けます。

2-4. 9～10 月 年内入試説明会のご案内

【概要】

首都圏看護学科 各キャンパスにて、年内入試の受験予定者向けに小論文/面接/自己推薦書などのポイントをお話し致します。

感染対策のため事前予約制とし、人数制限をさせていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。

【参加対象者】

2023 年度入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)を検討されている高校 3 年生が対象となります。(東が丘、立川、千葉看護学部 看護学科)ご家族の付き添いは 1 名以内でお願いします。保護者の方のみのご参加はご遠慮ください。

【実施日時】2022 年 10 月 2 日 (日)

【コンテン】

学部案内、入試説明、入試対策(面接・自己推薦書・小論文)、個別相談 etc..

2-5. 11 月 来校型学科見学会(首都圏 看護学科)

【概要】

①学科紹介: 大学での学習内容や各看護学科の概要や特長を説明します。

②学内見学: 実習室や図書館、学生ホールなどを案内します。

③入試説明: 入試の概要、昨年度入試結果についてご説明します。

※見学会終了後の質疑応答も受け付けます。

【実施日時】2022 年 11 月 30 日 (水) 16:30～17:30

【来場時に注意事項】

新型コロナウイルス感染拡大のため、当日はご自宅にて、参加される方全員の検温と健康チェックを行い、体調がすぐれない方や、体温37.5℃以上の方は来校をお控えください。また、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いしています。

2-6. WEB 入試説明会～一般選抜～ご案内(首都圏)

東京医療保健大学では、【一般選抜に受験】を検討しているみなさんに向け、WEBにて入試説明会を実施いたします。受験生はもちろん、高校2年生の方も是非ご参加ください。

【コンテンツ】

- ・学科説明
- ・入試概要説明（一般選抜）/出願手続きについて
- ・科目別対策講座※
- ・学生からのメッセージ（受験体験談・大学生活について）

【公開日時】2022年12月7日(水)12:00～2023年2月17日(金)22:00

2-7. 12月 来校型 学科見学会のご案内(首都圏 看護学科)

【対象】

一般選抜、大学入学共通テスト利用入試を検討中で初めて来校されている受験生の方。

【コンテンツ】

- ①学科紹介:大学での学習内容や各看護学科の概要や特長を説明します。
- ②入試説明:入試の概要、昨年度入試結果についてご説明します。
- ③学内見学:実習室や図書館、学生ホールなどを案内します。

【実施日時】2022年12月14日(水)16:30～17:30

2-8. 3月 春のオープンキャンパスのご案内(首都圏 看護学科)

首都圏看護学科4キャンパス(五反田キャンパス、国立病院機構キャンパス、国立病院機構立川キャンパス、船橋キャンパス)にて、オープンキャンパスを開催致します。

【プログラム】

- 各学部学科説明
- 2023年度入試結果速報&入試説明
- 学生のお話し(大学生活についてなど)
- キャンパス見学
- 個別相談 など

【実施日時】2023年3月26日(日)①9:30～ ②13:00～

2-9. 公開講座(立川市と共催)等の開催(FD企画を含む)

- ① 2022年5月19日(木)16:30～18:00 場所:第2別館2階 T2201 及びオンライン

○テーマ及び講師

「身分及び勤務について」東が丘・立川看護学部学部長 山西文子 教授

「カリキュラム検討委員会の活動について」立川看護学部 教授 桜井礼子 教授

「学生生活支援委員会の活動について」立川看護学部 教授 村松 仁 教授

「実習検討委員会の活動について」立川看護学部 准教授 藤村 朗子 教授

- ② 2022 年 9 月 22 日(木)10:30～12:00 場所:第 2 別館 2 階 T2201
○テーマ:「組織内の人材育成」
○講師:立川看護学部学部長 長田恵子 教授
- ③ 2022 年 9 月 22 日(木)16:30～18:00 場所:オンライン
○テーマ:「医学系研究に関する倫理指針のポイントと研究不正について」
○講師:国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
臨床研究・教育研修部門 臨床研究支援部 生命倫理室
室長 有江 文栄 先生
- ④ 2022 年 12 月 10 日(土)10:00～12:00
○定員:対面 50 名、オンライン 50 名
○テーマ:「やってみよう！自分でできるストレスマネジメント」
○内容:新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況の中、日常生活でのストレスマネジメントが心の健康を保つために重要です。本講座では、日常生活におけるストレスマネジメントの基礎的な内容をお話した後、簡単なリラクゼーション方法の実演を行います。
○講師:立川看護学部 看護学科 教授 村松 仁
立川看護学部 看護学科 講師 柳橋 正智
立川看護学部 看護学科 助教 小川 賀恵
○形式:対面、オンライン(Zoom)

2-10. 学友会活動

1) スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が 6 月 17 日(金) 12:00～17:30 に、駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場で開催された。当日のスケジュールは下記のとおり。

- 12:00-12:30 受付
- 12:40-13:00 開会式
- 13:10-14:50 爆弾ゲーム
- 15:00-16:30 スクエアドッチボール
- 16:40-17:30 表彰式・抽選会

2) 大学祭(医愛祭)

全学行事である医愛祭が 11 月 5 日(土)・6 日(日)に世田谷キャンパスで 3 年ぶりに開催された。今回のテーマ:「紡」

3. 入試状況

3-1. 2023 年度入学者選抜状況

概 要

立川看護学部看護学科については、入学者選抜の概略は以下のとおりである。

(2023 年 3 月 31 日現在)

試験区分	試験日	定員 ^④		志願者数 ^⑤		受験者数 ^⑥		競争倍率 ^{⑦/⑧}		合格者数 ^⑨		入学予定者数	
指定校推薦入試	11月13日(日)	(20)	20	(22)	23	(22)	23	(1.0)	1.0	(22)	23	(22)	23
公募制推薦入試	11月13日(日)	(23)	23	(49)	50	(49)	50	(1.2)	1.3	(41)	39	(41)	39
小計		(43)	43	(71)	73	(71)	73	(1.1)	1.2	(63)	62	(63)	62
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月14日(土) 15日(日)	(7)	7	(158)	145	(158)	145	(3.2)	3.5	(49)	42	(5)	0
一般選抜A日程入試	1月24日(火)	(15)	15	(175)	155	(169)	152	(2.6)	2.4	(64)	64	(21)	33
一般選抜B日程入試	2月4日(土)	(25)	25	(237)	193	(203)	150	(3.6)	2.8	(57)	54	(23)	18
一般選抜C日程入試	2月18日(土)	(10)	10	(104)	50	(86)	37	(7.2)	3.7	(12)	10	(2)	4
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月14日(土) 15日(日)	若 干 名	若 干 名	(5)	4	(5)	4	(2.5)	4.0	(2)	1	(0)	0
小計		(57)	57	(679)	547	(621)	488	(3.4)	2.9	(184)	171	(51)	55
合計		(100)	100	(750)	620	(692)	561	(2.8)	2.4	(247)	233	(114)	117

○ 学校推薦型選抜入試

1) 学校推薦型選抜(指定校)

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2023 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.8以上の者

(2) 選抜方法

調査書(点)・小論文(点)・面接(点)を総合的に評価し選抜した

2) 学校推薦型選抜(公募制)

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2023 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2)選抜方法

小論文(点)・面接(点)・調査書(点)を総合的に評価し選抜した。

○ 一般選抜型入試

1)一般入学試験 A日程

(1)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学

生物基礎・化学基礎の4科目から1科目選択(100 点)

2)一般入学試験 (B日程・C日程)

B日程(1)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、
生物基礎・化学基礎の5科目から2科目選択(各 100 点)

C日程(2)試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、
生物基礎・化学基礎の5科目から1科目選択(各 100 点)、調査書

3)大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

(1)試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200 点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、
生物基礎・化学基礎の5科目から2科目利用
(100 点)

注:選択科目で3科目以上受験している場合は、高得点の2科目を採用
理科を2科目選択する場合は、「生物」「化学」の組合せのみ可

4. 教職員名簿

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
東 東	東が丘・立川看護学部長	山西 文子	副学長/教授	H25.4.1 採用
	立川看護学部長	長田 恵子	副学長/教授	R 4.6.1 採用
	看護基盤学	高木 晴良	准教授	H26.4.1 採用
	基礎看護学	堀田 昇吾	講師	H25.7.1 採用
		三浦 由紀子	助教	H28.4.1 採用
		大場 久美	助教	H31.4.1 採用
		松谷 弘子	教授	R 3.4.1 採用
		岩満 裕子	准教授	H26.4.1 採用
		菅野 由貴子	講師	R 3.4.1 採用
		今井 淳子	助教	H30.4.1 採用
		松山 妙子	助教	H29.6.1 採用
		大場 久美	助教	H31.4.1 採用
東 東 東	成人・老年看護学	片岡 大己	助手	R 4.4.1 採用
		青木 和恵	教授	R 2.4.1 採用
		内藤 亜由美	准教授	R 3.4.1 採用
		藤村 朗子	准教授	H27.4.1 採用
		岩渕 起江	講師	H24.4.1 採用
		櫻井 敬子	講師	H29.4.1 採用
		折元 美雪	講師	H28.4.1 採用
		苅田 明子	助教	H29.4.1 採用
		泥谷 朋子	助教	R 2.4.1 採用
		久保 恭子	教授	H28.4.1 採用
東 東 東 東 東	小児看護学	宍戸 路佳	講師	H31.4.1 採用
		衣川 さえ子	教授	H29.4.1 採用
	母性看護学	黒澤 範子	准教授	H29.4.1 採用
		吉田 亜希子	助教	H27.4.1 採用
	精神看護学	村松 仁	教授	H31.4.1 採用
		柳橋 正智	講師	R 4.4.1 採用
		小川 賀恵	助教	H31.4.1 採用
	在宅看護学	桜井 礼子	教授	H27.4.1 採用
		テイラー 栄子	准教授	H29.4.1 採用
		村田 加奈子	助教	R 2.4.1 採用

注:「東」は、東が丘・立川看護学部担当者

事務職員	役職	氏名
	部長	利光 重信
	部長代理	内田 智明
	主任	井上 里美
	職員	細井 智世
	職員	知識 比呂美
	保健室	清水 容子
	PCサポートセンター	梅田 陽子
	学生相談担当	原田 直美
	図書館司書	町田 玲彦
	図書館司書	長坂 由美
	図書館司書	内田 節子

5. 委員会活動

カリキュラム検討委員会

構成員

桜井礼子（委員長）、松谷弘子（副委員長）、長田恵子、山西文子、青木和恵、
衣川さえ子、久保恭子、村松仁、利光重信、井上里美、知識比呂美

活動内容

本委員会は、教育の質向上を目指し年間実施計画に基づき活動を行った。

2022 年度は、1 年次生から新カリキュラムの運用が始まり、3 つのカリキュラムが運用された。対面授業は、前期は「レベル3」、後期は「レベル2」で時間割の調整を行い予定通りカリキュラムを終了することができた。成績評価は、1～3 年次生の進級、および 4 年次生の卒業の判定について、進級要件および卒業要件に従い確認を行った。また、学部通則の制定にともない、履修規程および細則の見直しを行った。

アクションプランは目標にそって、アクティブラーニングの推進、ICT 活用に向けた検討を行った。アクティブラーニングは、①現状調査、②全教員参加によるアクティブラーニングに関する情報共有と意見交換会の開催、③今後に向けた取り組みについて検討を行った。アクティブラーニングについては、多くの科目で運用しており、シラバスに明示することを確認した。ICT 活用については、ICT 推進員を中心とした WG を立ち上げ、ICT 教材や活用に関する検討を行った。

次年度に向けては、令和 2(2020)カリキュラムの評価、学修ポートフォリオの作成に取り組む予定である。

実習検討委員会

構成員

藤村朗子（委員長）、岩渕起江（副委員長）、桜井礼子、穴戸路佳、堀田昇吾、
柳橋正智、松山妙子、三浦由紀子、吉田亜希子、利光重信、菊池広訓

活動内容

本委員会は、東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）および立川看護学部の教育の質向上に向け、看護学実習指導体制の整備に関する以下の活動を実施した。

1) 看護学実習計画

2023、2024 年度の実習計画を策定した。COVID -19 により実習形態の変更や追実習が生じたため、各領域の実習実施状況について共有を図った。

2) 看護学実習施設に対する説明会

6 月 23 日（木）にハイブリット形式にて開催した。臨地実習実施上の工夫や課題について説明し、20 施設から 48 名の実習担当者が出席した。

3) 看護学実習連携会議

12月12日(月)に災害医療センター、村山医療センター、共済立川病院との共催で、ハイブリット形式にて開催した。テーマを「コミュニケーション能力を育む実習指導」として実習指導者と教員間で討議を行った。また、実習施設と共同で第42回日本看護科学学会学術集会にて交流集会を実施した。

4) インシデント対策

インシデントは5件であり、患者に直接的な影響がなかった。

5) 看護技術経験表の集計

4年次生に調査を実施。到達度60%未満の項目は、178項目中8項目(4.5%)。感染対策上、留意が必要な技術項目の到達は前年度と同様に到達度が低かった。集計結果を教育活動に活かす資料として各領域で共有した。

学生生活支援委員会

構成員

村松仁(委員長)、藤村朗子(副委員長)、黒澤範子、岩淵起江、櫻井敬子、堀田昇吾、荻田 明子、小川賀恵、村田加奈子、大場久美、利光重信、菊池広訓、清水容子

活動内容

本委員会の担当業務として、コンタクトグループミーティングの企画運営、卒業関連事業への支援、保健室担当者との情報共有、学籍変更に関する対応を行った。コンタクトグループミーティングは4月と12月に実施し、約8割の学生が参加した。学生へのアンケートでは約8割以上が「交流が持てた」「情報共有ができた」との回答があり学生間の交流促進に役立ったと考えられた。次年度も引き続き、運営方法等を検討し、学生間の交流促進に寄与できる運営を考えている。また、今年度は3年ぶりに新入生合宿研修、大学祭(医愛祭)、スポーツ大会が開催された。医愛祭(11月5日、6日)では、学科企画として「災害・防災について考えよう」をテーマに、防災グッズ展示、新聞紙で作る避難所で使えるスリッパ・器作成、トリアージの紹介、立川看護学部の紹介を行い217名の来場者(学科企画のブース来場者)があり、災害について備えることの重要性を改めて感じたなどの意見が多く概ね好評であった。卒業関連事業への支援として同窓会委員の選出、卒業アルバム委員、卒業を祝う会委員を選出した。

国試・就職対策支援委員会

構成員

岩満裕子(委員長)、内藤亜由美(副委員長)、高木晴良、黒澤範子、櫻井敬子、穴戸路佳、菅野由貴子、柳橋正智、村田加奈子、片岡大己、利光重信、菊池広訓、井上里美、細井智世

活動内容

国試に関する目標は、「看護師国家試験全員合格」とし、就職においては、就職・進学率 100%を目指し、企画・実施した。

1) 国試対策支援

1 年次から各学年担当者が国試を意識できるために、ガイダンス及びWeb模試を実施した。

3 年次生には、今年度の国家試験を Web にて実施した。4 年次生には、Web を含めた業者模擬試験を 6 回実施し、12 月の教員による補講、毎日 3 問の国試対策問題提示解説のメール配信、ZOOM での弱点分野の講義等を実施。更にゼミ毎に対策を実施した。学習強化が必要な学生は委員の個別指導で対応した。既卒者へも該当するゼミと委員会で支援した。次年度は 3 年次から強化し、業者等も導入予定とした。

2) 就職対策支援

昨年同様に支援講座は継続し、特に ZOOM によるメイクアップ講座は学生に好評であった。

病院見学が実施されていない状況において、ZOOM による卒業生との懇談会は、学生が希望する病院に就職した卒業生から情報を得られる場となった。次年度は卒業後の支援を見据え、ホームカミングを計画し、卒業生の声を直接聴ける支援体制を検討していく。

自己点検・評価委員会

構成員

高木晴良(委員長)、内藤亜由美(副委員長)、菅野由貴子、折元美雪、吉田亜希子、利光重信、菊池広訓

活動内容

2022 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、2021 年度の年報を編集・作成し、WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/tachikawa/pdf/index/tachikawa-annual_2021.pdf

FD委員会

構成員

高木晴良(委員長)、内藤亜由美(副委員長)、菅野由貴子、折元美雪、吉田亜希子、利光重信、菊池広訓

活動内容

1) 立川看護学部のFDマップについて

大学の方で「FD企画に関する予算を前向きに検討していただける」ということなの

で、FDマップの内容の検討を始めた。

まず、FDマップを作成するためには、「立川看護学部の求める大学教員像」が必要になるため、その検討をすることになった。

2) 以下のFD企画を企画・開催・広報した。

対面 FD 企画

回	開催日時	テーマ	参加者数
1	5/19 16:30～	新任教員対象の FD 研修会 「身分および勤務について」 山西 学部長 「カリキュラム検討委員会の活動について」 桜井 先生 「学生生活支援委員会の活動について」 村松 先生 「実習検討委員会の活動について」 藤村 先生	2 名 (100%)
2	9/22 10:30～	組織内の人材育成 長田 学部長	20 名 (54.6%)

オンデマンド FD 企画

回	開催日時	テーマ	視聴者数
1	6/20 ～	WebClass の使い方について(資料集+動画)	5 名
2	9/16 ～	researchmap の登録方法(動画)	9 名
3	9/23 ～	組織内の人材育成(動画)	2 名
4	11/16 ～	SPSS の基礎(資料+動画)	4 名
5	11/16 ～	統計ソフト(JMP)の使い方(資料+動画)	1 名

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

青木和恵(委員長)、テイラー栄子(副委員長)、宍戸路佳、折元美雪、今井淳子、片岡大己、利光重信、細井智世

活動内容

本学部の広報を目的として次の 5 項目について、全学広報委員会の計画に基づき企画運営した。

- 1) オープンキャンパスは入試説明会、学科説明会を合わせ 6 回開催した。在校生、教員、職員の協力を得て学部紹介、模擬授業、入試案内などを企画した。中でも学生による Message や個別相談が好評であった。
- 2) 2024 年版大学案内の作成では、いきいきと学ぶ学生の素顔取材し、実習や演習などの協力医療機関について解説し、躍動的な本学部を紹介した。

- 3) 学報 KOKORO の掲載では、立川看護学部の代表的な学生を選出し、災害看護を特徴とする本学部の学生らしさをアピールする記事とした。
- 4) 特定の高校を対象とする来校型学校説明会は2回開催し、その高校を卒業した在校生による Message を企画し高校生の気持ちを引きつけた。
- 5) 要請のあった高校への出張講義は3回行い、看護の魅力と看護師へのプロセス、また看護技術の意味などを高校生に紹介した。

これらを通して、立川看護学部の良さと特徴を地域社会へ、また、看護を志望する高校生やその家族に届けるという目標を達成したと考えている。

図書委員会

構成員

松谷弘子（委員長）、衣川さえ子（副委員長）、村松 仁、テイラー栄子、大場久美、町田玲彦、内田節子

活動内容

COVID-19 感染症対策の中、図書館の開館時間、休館日の変更等を図書館ホームページ上で公開するなど、利用者、特に学生への利便性の向上を視野に入れた活動に努めた。

- 1) 図書委員会予算にて、国試・就職対策支援委員会へ看護師国家試験問題集の購入、及び関連図書の補充を行った。

各領域で購入した図書や DVD の一覧を教授会で提示し、情報共有を図った

- 2) 図書の除籍・廃棄

立川図書館における除籍・廃棄は完成年度になるまでは実施しない。

- 3) 月次報告の作成

立川図書館における月次統計として、利用実績および契約データベースへのアクセス状況を月次報告として取りまとめ、教授会で報告した。

- 4) Web 及びメール会議の実施

COVID-19 感染症対策の中、可能な限りメール会議、Web 会議として実施し、効率的な委員会活動とした。

入試委員会

構成員

構成員は非公開としている。

活動内容

立川看護学部の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

国際交流委員会

構成員

松谷弘子（委員長）、内藤亜由美（副委員長）、黒澤範子、三浦由紀子、大場久美、
利光重信、菊池広訓

活動内容

1) オーストラリア研修

研修の目的

- ・生きた英語を学ぶ（少人数制の授業および各種独習プログラム）
- ・オーストラリアの医療について学ぶ（講義および英語の授業）
- ・オーストラリアの文化と生活について学ぶ（アクティビティおよび英語の授業）

コロナ禍により今年度もオンラインでの研修・交流をグリフィス大学と調整、実施した。

9月5日～9月13日の9日間のオンライン研修では、立川看護学部から参加した学生は4年生1名である。事後アンケートでは、日豪の医療制度の違いやオーストラリアの看護の実際が理解でき、満足度も高かったものであった。

2) ハワイ研修

研修の目的

- ・アメリカの医療（看護、栄養、医療情報）について学ぼう/ 視野を広げよう
- ・学生交流を通じてハワイの文化を体験しよう/ 交流を深めよう
- ・バーチャルツアーでハワイのより深い魅力を知ろう/ 楽しもう

コロナ禍により今年度もオンラインでの研修・交流をシャミナード大学と調整した。

3月8日～16日の6日間である。学長裁量経費の補助もあり、立川看護学部の参加人数は13名（3年生11名、1年生2名）であった。

6. 教育活動

なお、カリキュラムの関係で、4年次生の科目は立川・東が丘看護学部科目である。

【看護基盤学領域】

教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず、学際的な広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。看護学以外の視点も重要視し、人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指している。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

本年も、コロナ禍での教授となったため、昨年度の経験を基に、対面と遠隔リアルタイム講義を取り入れ、双方のメリットを生かした講義形式で行った。

科目名

1) 自然科学の基礎：1年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生には質問をミニレポートに記載してもらい、次の講義時にその質問に答えるという形式で情報を共有し、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想されるため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指している。

2) 疫学・保健統計：1年次後期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良

今年度から新しく始まった科目である。疫学が、疾病の流行状態からその原因を探求し、予防方法を検討することで、人々の健康とQOL向上に資する学問であることを理解し、疫学によって各種エビデンスが創出されることで、医学や看護学が進展していることを理解してもらうことを目的とした。さらに、流行状態を示す情報源である各種保健統計の読み方の習得も目指した。そのため、医学・看護情報学の基礎の情報学部分（バイアス等）と公衆衛生学の保健統計部分、今まで触れる機会がなかった疫学の基礎部分を組み合わせた講義とした。

ほぼ毎回、講義内の重要なポイントをランダムに口頭試問するようにした。質問された人だけでなく、それ以外の人も重要なポイントを把握できるようにするためである。

また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。質問への回答は、昨年までの個別対応をする方法の代わりに、次回の講義の最初にまとめて解説する方法に変更することで情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

3) 実践統計学：1 年次後期 （対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

昨年までは 2 年次の前期で「統計学」として講義が行われていたが、今年度からより実践的な内容として 1 年時の後期に開校することになった新しい科目である。

数多く存在する統計的な分析方法の一番基礎となる部分を、身近な Excel と大学生のアンケートデータを用いて、集計・分析することで、基本的な統計用語と統計学の基礎を習得し、その後、より実践的な健診データを各自のパソコンにインストールされている統計ソフト（JMP）を使って集計・分析することで、より実践的な知識として身に付けることを目的とした。

事前に操作と統計用語に関する説明資料と実際に操作方法を説明した動画を学生に提示することで、反転授業を試みたが、学生の予習が十分でなく、思ったほどスムーズに進めることが出来なかった。

ただし、「健診データを指示に従って集計、分析する」という最終課題をクリアできたことから、必要最低限の分析手法は身についたはずである。今後は、この内容を忘れないように、2 年次以降の HD S 関連の講義中でブーストしていく予定である。

4) 公衆衛生学：2 年次前期 （リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

今年度は、ほぼ毎回、講義内の重要なポイントをランダムに口頭試問するようにした。質問された人だけでなく、それ以外の人も重要なポイントを把握できるようにするためである。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。質問への回答は、昨年までの個別対応をする方法の代わりに、次回の講義の最初にまとめて解説する方法に変更することで情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学

生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

5) 医療・看護情報学の基礎：2年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良

「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知るだけでなく、その「まもり方」を中心に解説した。「医療・看護情報の特殊性」「病院内の情報ネットワークシステムの種類と導入推移」「情報倫理と医療倫理」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱い」「個人情報とプライバシーの違いと、その保護の方法」の5つテーマについて講義を行った。

今年度は、ほぼ毎回、講義内の重要なポイントをランダムに口頭試問するようにした。質問された人だけでなく、それ以外の人も重要なポイントを把握できるようにするためである。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。質問への回答は、昨年までの個別対応をする方法の代わりに、次回の講義の最初にまとめて解説する方法に変更することで情報を全員が共有できるようにした。

今年度も WebClass を用いて対面で終講試験を行った、試験自体はスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

6) 災害ボランティア論：2年次後期（リアルタイム遠隔講義＋一部対面講義）

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

ボランティア活動に対する関心が高まり多様なボランティア活動が展開されている。このような現状の中で保健医療の専門職としてボランティア活動に対する理解を深めることが必要である。多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とした。

今年度も、コロナ禍の影響で実際のボランティア活動に参加できなかったため、「各グループがそれぞれのテーマの下でボランティア活動の計画を立て、広報担当としてプレゼンをする」という企画を行った。遠隔のグループワークにもかかわらず、主体的に話し合いが行われ、プレゼンの内容も工夫に富んだイベント計画が練られており、学生にも引き続き好評であった。

7) 臨床検査学演習：2年次後期（対面演習＋一部遠隔講義）

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、伊東丈夫、高以良仁、齊藤洋子、吉田奈々絵、浅利菜穂子、塩野彩

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。組織学的検査、心電図、手指衛生、超音波検査、放射線検査、染色体検査、細菌学検査、呼吸機能検査、血液検査、尿検査のそれぞれについて、小グループ

に分かれ、学内で対面演習を行った。

組織学的検査に関しては、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。

心電図検査は、12誘導心電図を用い、看護師役患者役双方の体験を通し、検査時の看護師の配慮について検討をした。手指衛生については、感染症の拡大によって感染対策の重要性は増し、改めて正しい手指衛生について演習を通し理解を深めた。超音波検査演習に関しては、エコー検査の基本的理解に加え、看護援助場面でのエコーの活用について教授した。果肉ゼリーや寒天を使った血管模型を用いて、エコー画像の見え方を理解した後に、学生自身の腕の血管を描出し、人体の画像の見え方を受講者全員が体験した。また、人体のファントムを用いて、結石やがん組織などがどのようにエコー画像として捉えられるのかを観察した。細菌学検査では、手指に付いている細菌を培養して、汚染状況を確認したり、身の回りのスマホの表面などの細菌汚染の状況について培養して観察したりした。

一方で、血液検査や尿検査はデモしか体験できなかったため、学生からは「残念だった」という意見が多く見られた。ただ、「簡単な尿試験紙でも、微糖のお茶に含まれる糖분을キチンと濃度も含めて検知できること」を体験させることができたのが、唯一の救いである。(昨年までは、自分の尿を調べていたため、尿糖は「－」で試験紙の色が変わらないのが普通であった)

8) 臨床薬理学演習：2年次後期 (リアルタイム遠隔講義+対面演習)

堀田昇吾、三浦由紀子、軍司剛宏

1年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況(年齢、性別、生理的状态など)による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などについて、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。また、外来通院での抗がん剤加療をする患者が年々増えており、抗がん剤の血管外漏出について、影響の強い薬剤および対処方法についての解説を加えた。

今年度は教育用電子カルテソフト(Medi-EYE)を用いて、がん患者の事例から、使用する抗がん剤や支持療法薬等について情報を収集し、必要な看護を検討した。また、学生間でグループディスカッションを行い、事例患者に必要な看護について意見交換を行った。教育用電子カルテソフトを使用することで、より臨床現場に近い方法での情報収集を行うことができ、学生からも好評であった。

9) 医療・看護論文の講読：2年次後期 (リアルタイム遠隔講義)

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

より早いタイミングで、時間をかけて、論文の読み方を身に付けさせるために、3年次に実施していた実用医療英語を改変し、新しく設定された科目である。

EBNにおける看護研究の意義と論文の種類、構造、検索方法について講義した。また、

学生はテーマ別のグループに分かれ、自ら検索・選択した和・英論文を各1本読解し、その内容をグループ内で発表した。さらに、グループ内で発表された論文の中から和・英論文1本ずつ選択し、他のグループ全体へ論文の内容とその評価結果をプレゼンテーションした。

コロナ禍のため、対面でのグループワークやプレゼンテーションはできなかったが、Zoomのブレイクアウト機能を活用して実施した。

多くの学生は論文に初めて触れる機会となったが、他グループのプレゼンテーションに対しても活発な意見交換がみられ、クリティークのポイントを理解することもおむね達成できていた。

10) 看護研究の基礎：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋一部対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

EBNにおける看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究の意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、研究計画書の書き方など基本的な知識を習得することを目的とした。

さらに、身近な量的データをExcelや統計ソフトのJMPを使って実際に分析するという演習を行った。卒業研究を実施する段階で「統計が全く分からない」ということでは困るため、必要最低限の知識を確認してもらった。

11) 実用医療英語：3年次前期（代替講義）

高木晴良

2年次後期に開講される「医療・看護論文の講読」に置き換えられた科目である。

東が丘・立川看護学部生の学生には、カリキュラム上で講義が必要であるが、該当する1名には2年次の「医療・看護論文の講読」に参加してもらうことで代替した。

12) 国際看護学：3年次前期（リアルタイム遠隔講義）

三浦由紀子、高木晴良、堀田昇吾、桜井礼子

進展するグローバリゼーションと健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的としている。グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実際について学習し、今日的な課題について考える内容の講義を行った。

実際の健康問題、SDGsに関連する各国の健康指標を調べてグラフ化したり、国際協力に実際に関わってきた教員の体験をもとにした教材を用いたりしたことで学生の関心が高まり、国際看護を身近なこととして認知し、その将来を考える機会となったようである。

13) 災害看護学Ⅲ：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋一部対面演習）

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、大場久美、桜井礼子、高以良仁

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期 までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC 災害（核（nuclear）、生物（biological）、化学物質（chemical）による特殊災害）に対する基本的知識・技術についても紹介した。

また、対面演習としては、DMAT 隊員による災害現場救護所における対応と二次トリアージに関するシミュレーション演習と避難所運用ゲームであるHUGを実施した。これまでの災害看護に関する知識をベースに演習を行うことで、より実践力育成につながったものと考えている。

14) 英語論文のクリティーク：3年次後期

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。

各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

15) 看護学統合実習：4年次前期

長田恵子、高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としており、臨地実習（90 時間）と災害看護学実習（45 時間）からなっている。

臨地実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は4施設で実施した。コロナ禍で、施設ごとに制限はあったが、学生は「複数患者受け持ちによる優先順位の考え方」「看護師長やリーダーによる看護マネジメントの実施方法」「夜間看護の特徴」などについて学んでいた。災害看護学実習は、災害医療センター、立川防災館の2施設で行った。マス・トリアージ、災害時病院初期対応シミュレーション、避難所設営シミュレーション、災害体験などを実施した。災害医療センターのDMATメンバーから全面協力を得られ、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能や、各所における責任ある行動及びリーダーシップについて学修することができていた。

16) 卒業研究：3年次後期・4年次前期・後期

山西文子、高木晴良、その他全教員

14名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場で行う看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2022年11月3日には、「2022年度卒業研究発表会」を、4年生及び教員と3年生の1/3は体育館に、残りは各教室からZoomで参加するというハイブリッド形式で開催した。来賓として、災害医療センターからは「高見沢愛弓看護部長、鵜田美奈子副看護部長、福田敦子教育担当看護師長」の3名、立川病院からは「6N病棟清水愛様、6S病棟武下佳代様」の2名の方々が実際に来校され、村山医療センターからは「前田奈穂美看護部長、高瀬律子教育担当看護師長」の2名がZoomで参加してくださった。

なお、各ゼミのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

成人	コロナ禍における多様化された実習形態がおよぼす自己効力感とその関連要因 ～成人・老年看護学実習を経験した看護学生の認識～	追野真遥・志村紗波・雨田琴葉・神崎瑞季・栗原由季・小井戸美沙斗・小島 櫻・齊藤陽菜子・菅原萌音・高橋里華・寺田有芽・林 玲奈・御子柴優楓・深山優奈
老年	COVID-19 感染拡大下において学生の心に残りその後に生きる老年看護学非臨地実習とは SCAT による分析を用いた質的研究	大坪美月・平岡未帆・吉村春那・安西涼雲・伊藤佳子・伊藤聖佳・大森愛瑠奈・加藤葉月・金井美佳・金子美月・阪井 梓・高嶋杏・渡嘉敷麻衣・山崎帆夏
基礎①	聴覚障がい者のソーシャルキャピタルと災害自己効力感に関する探索的研究	小林愛弥・三輪彩乃・大久保舞・金田里香・河口渚早・河原結衣・平山千夏・宮崎 藍・森 夏帆・山田真央・山田真理・吉村優里
基礎②	コロナ禍における看護大学生のレジリエンスの関連要因	堤 琴音・高橋海羽・木村由希・清水里香・園田安貴子・瀧川樹季・武川玲奈・田村遥海・永井楓子・長岡咲希・名倉茉優・宮崎麻由・村上鈴香・村野恵美
精神	災害時ボランティア参加の促進要因に関する研究 ～看護学生における検討～	坂井彪我・小澤瑞希・齋藤優羽・鈴木果蓮・阿部ひかり・小岩井 光・近藤彩音・西城戸美紅・

		伊藤美紀・小熊理恵・小林美菜・塩澤美海・鈴木絢子・吉田彩夏
小 児	4歳児をもつ保護者の新型コロナワクチン接種に対する意識調査	土屋明日香・寺島さらさ・会沢七海・相原ちひろ・大貫南々葉・小川原堇・菊池香帆・小林康成・澁谷あゆ・瀬戸僚太・古山海優・谷原里佳・山鹿理都子
母 性	乳児をもつ母親における災害時の授乳行動に関する知識と備えの実態	岡田美都・熊谷颯太・石神幸人・曾我百菜・齋藤彩世・高橋舞衣・宮崎瑠奈・八木卓眞・江谷美風・緒方文乃・加藤あこ・河野亜佳音・山根有紗
在 宅	大規模災害を想定した東京都の訪問看護師が行っている教育的な防災準備の実態調査	志村光之介・大田真実・多田美海・田中千尋・三浦 笙・伊藤佑・近藤理沙・坂部文香・佐々木安美香・佐藤ゆい・白井美羽・高田直哉・高橋優心
基 盤	災害拠点病院・アレルギー拠点病院の外来看護師が行っている、食物アレルギー患児とその養育者への災害に備えた食事に関する教育の実態について	湖城 萌・仲里梨佐・安久桃子・飯野陽南子・岩城有李・大田麗奈・大高麻衣・木村彩未・齋藤なな子・清水桃花・西脇花奈・堀内蒼生・町井志帆・山下芙海

【基礎看護学領域】

教育方針

新年度よりコロナ禍の中での教育活動であったが、昨年度より引継いだ「健康上の問題を持つ人の基本的ニーズの充足を目指した看護」を理解できることを看護基礎教育の基盤に置き、基礎看護学領域一丸となつて、看護学の学習の必要性を理解できる意欲的な学生の育成を目指して取り組んだ。具体的には看護について様々な視点から学び、看護師を目指す構えができることを目標としており、平時のみならず災害時に必要となる基本的知識も含めた内容を教授した。講義と演習では一連の流れを通して看護行為の意味づけを各自が考え、知識と技術が統合できる教育構造を構築する。臨地実習では振り返りを通して自ら考え、今後の学習の必要性を理解し、学生が看護の視点での観察力と他者理解の重要性が育成できるよう、基礎の各科目と関連づけた思考の構築を目指す継続的な自己学習ができる学生の育成を教育方針とした。

科目名

1) 看護学概論：1 年次前期

松谷弘子

看護の初学者が最初に看護を学ぶ科目として、看護の基礎的内容を概観する内容とした。具体的には、「環境」「健康」「人間」「看護」の4つのキーワードから看護の概念を理解したうえで、様々な場で展開している看護の機能と役割を教授した。また、ライフサイクルから健康を考え、生活者の健康を統計から理解し、医療や看護の動向を考えていった。実際の看護の場におけるチーム医療や看護倫理、医療安全だけでなく、看護師のキャリア形成、国際看護、災害看護といった幅広い内容を教授している。今年度より看護学体験実習では、病院だけでなく訪問看護ステーションや包括支援センター、老人保健施設の見学を新たに組み入れたため、看護学概論では看護学体験実習前までに、看護サービスの場の提供まで講義をすすめ、看護学体験実習の学びと連携できるように考慮した。初学者の1年生が、看護のイメージがしやすいように具体的な臨床の事例も含めながら教授した。

2) 看護倫理：1 年後期

岩満裕子

倫理的問題は、1年生には何が倫理的問題なのかを理解することが困難である為、身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題とは何かが理解できるよう教授した。倫理的問題を理解したうえで、基本である世界医学界宣言と看護師の倫理綱領の内容が理解できるよう読み砕き、倫理観が深められるように実施した。医療倫理に関しては、トム・L・ビーチャムらの記した「生命医学倫理」を活用し、事例を取り上げ倫理的問題がどこにあるか考える時間とした。倫理的問題の解決法としては分析ツール（JONSEN の窓、4 ステップモデル）を説明し、実際に事例分析を個人で検討後、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。最後は、災害時に起こりうる倫理的問題として考えられる事項とその対策についてグループワークを実施した。最終レポートとして、コロナ情勢も含めた身の回りの倫理的問題とそれに対する判断を明示することを課題とし評価した。次年度も、医療における倫理的問題の事例を読み砕くことで理解できるように教授し、倫理問題を検討するための看護倫理の視点教育を実施する。

3) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）：1 年前期

菅野由貴子、松山妙子、大場久美、松谷弘子、岩満裕子、今井淳子、片岡大己

開講に当たり、これまで日々の生活で当たり前のように行ってきた日常生活が成立するために必要なことは何かを考えることから出発し、初めて接する「看護技術」とは何か、科学的根拠に基づく看護技術の基本的な知識や特徴を学ぶことを示した。これを土台としてさまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を、対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら、援助を実施するための基本的知識・技術・態度を学習することを目的とした。

新型コロナウイルス感染症対策の中で、実技演習を重視する本科目では感染対策を講じながら対面での演習を原則とした。演習では事前に講義の復習とナーシングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、技術をイメージしやすいよう演習実施時の教員デモンストレーション、少人数に分かれて教員からの指導の下で実施した。講義、演習ともグループワークを活用し、他者の意見、考え方への気づき、自己の行動の客観視を得られる機会を作り、学生相互で学びを補完し振り返りながら学びを整理できるよう図った。

4) 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）：1年後期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、松山妙子、大場久美、今井淳子、片岡大己

治療・処置における援助技術は、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。さらに正確な技術は災害時の被災者の救護、不足する物資の中で最大の医療提供のために必要である。講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授し、演習では講義で得た知識を活用して根拠を明記した手順書を作成してから演習に臨み、教員指導の下での演習でも必要に応じて演習中も動画で確認しながら主体的に学習を行うことを目指した。清潔・不潔の区別が重要になる技術項目であるため、全体を通じて清潔なものを汚染しないこと、汚染を広げないことを、汚染した場合にはどうするかを考えられるよう演習を行った。演習中はグループワークを取り入れながら、他者の検討からの気づきから自己の思考を広げること、自己の実践の気づき、振り返りの大切さを気づき、学習に活かすよう教授した。また新型コロナウイルス感染症等で演習に参加できなかった学生には、演習補講を行い学習の機会を確保した。

5) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）：1年後期

今井淳子、松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己

様々な状況（災害時を含む）にある人間の生活過程を整えるために、対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、様々な看護技術を統合・応用・創造し、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。

講義は、清潔援助に関する基本知識の習得を目指して行った。Google フォームを用いた確認テストや、動画を用いながら援助技術のポイントや留意点を解説した点が学生に好評であった。演習は、様々な清潔援助に関する基本的技術の習得と、看護師・患者役の体験を通して、実施した技術を振り返り、改善点を明確にすることを目指し、指導を行った。また、技術の統合では、対象者のニーズの判断、個別性、安全・安楽、及び倫理的配慮を考慮した看護援助の計画と実施が行えるように指導を行った。実施後は、自身の援助計画とその実施の評価をグループメンバーや担当教員と共に振り返ることで、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学び得ていた。

次年度も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向けて、講義・演習内容を検討していく。

6) ヘルスアセスメント：1 年前期

岩満裕子、松谷弘子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、今井淳子、片岡大己

対象の健康問題を把握するために必要な基本的看護技術となる観察、基礎情報の取り方、バイタルサイン測定の実施と測定値が意味する状態を教授した。実践に活用できるように肺炎とクモ膜下出血術後のリハビリ患者事例を作成し、グループ毎にどちらかの患者役となり、お互いに看護師役と患者役を演じ、主訴・現病歴・既往歴・家族歴・生活背景を取り、個人で情報からの問題を考えた後に、グループで問題を検討することで、患者情報収集の必要性が理解できるように実施した。演習後は4段階自己評価を実施し、低い評価については補足説明を行った。バイタルサイン測定は演習後に実技試験を実施し、不合格者には再度指導を行い、全員が測定できるように実施した。次年度は、科目責任者が変更になる予定。

7) フィジカル・アセスメント：1 年後期

岩満裕子

カリキュラムの変更に伴い、2 年前期へ移動したため、今年度は開講していない。

8) 看護過程と看護方法論：1 年次後期

松山妙子、松谷弘子、岩満裕子、大場久美、片岡大己

臨地実習を見据えた看護過程の展開をキーコンセプトに、ICT ツールや模擬患者を活用した授業展開を行った。

教育用電子カルテ Medi-EYE を活用し、膨大な患者情報からアセスメントに必要な情報を自ら収集する力を養うことをねらいとした。また、F.CESS nurse を用いてアセスメント・看護問題の明確化・看護計画・実施・評価の記録を行い、臨床でのデジタルリテラシー能力を育む授業展開を行った。ICT ツールを活用することで、情報リテラシーについても考えるきっかけとなり、臨地実習前のレディネスを高める機会となった。看護計画の実施では、4 年生を模擬患者に見立てて自ら計画した援助を実施し、4 年生より看護目標の到達に向けてのフィードバックから、看護計画の追加・修正がみえる化する演習を実施した。各回の講義では、前回の復習と課題のフィードバックを行い、積み残しが無いように授業を進めるようにした。また、講義ではグループワークを活用し、思考を深める時間を大切に、グループワークの発表と講評からゴールが可視化できるような授業展開を行った。グループ課題では、個人課題とは異なる看護問題のアセスメントと看護計画の立案を課し、その成果を動画で収録し、WEB 発表会を行った。各グループの発表を視聴し、事例患者を幅広く捉える機会とし、アセスメントの奥深さと看護の多様性を知る機会を設けた。

9) コミュニケーション技法：1 年次後期

岩満裕子

基本的なコミュニケーション技法について概説し、自己理解・他者理解を中心に据え

て教授した。自己のコミュニケーション能力が如何なるものか、何が不足しているかを
実体験から学ぶことと、患者とのコミュニケーションにおいて如何なる姿勢等が必要と
なるかを学ぶ目的で、模擬患者演習を 3 回実施した。1 回目は、言葉の伝わり方及び患
者の表情・態度から読み取る必要性の理解を目的に、各自が携帯電話で録音し、プロセ
スレコードに落とし、検討する演習。2 回目は日常生活援助展開実習をイメージできる
ように初日の挨拶から援助の実施に向けた承諾を得るシーン、最終日の患者への挨拶ま
での流れでブースを 5 つ作成して実施。3 回目は指導者への報告演習とした。模擬患者・
指導者役として、リアル感を演出するために卒業生に協力を得て実施した。演習は録画
して、全員で共有し、全体で振り返りを行った。各演習後は自己評価を実施した。認知
症、聴覚・視覚障害、言語障害を持つ方たちへのコミュニケーションについては障害ご
とのグループで調べ、グループを再編成し、それぞれがその障害の専門家として教え合
う学習を実施した。次年度も同様に計画予定である。

10) 看護学体験実習：1 年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、今井淳子、小川賀恵、荻田
明子、泥谷朋子、三浦由紀子、村田加奈子、吉田亜希子、片岡大己

入学して 2 か月後の 1 年生が、学内で学んだことを実際の医療機関や地域の施設での
見学実習を通し、看護の対象や看護を提供する場について幅広く理解を深めることがで
きた。

実習病院である国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターの看
護部の協力を得て、初日は学生全員が、いずれかの施設にて看護職の役割と活動の説明
を聞き、午後からは病院の環境を学ぶために施設内の見学を実施した。2 日目以降は病
棟や病床の環境を学び、看護の提供場面を見学し、実際に入院している患者の反応を観
察して、入院している患者について理解を深めた。

病院以外に包括支援センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設のいずれか
1 施設の見学実習を行った。包括支援センター1 施設のみが COVID-19 感染予防により
ZOOM となったが、他の施設には実際に学生が見学実習を行うことができた。学生は、こ
れらの施設見学を通して、これから学ぶ患者という対象を病院という視点だけでなく地
域で生活している対象者として幅広い視点で学ぶことができ、今後の看護学の講義や演
習にイメージしやすくなり、学習効果が期待できる実習となった。

11) 日常生活援助展開実習：1 年次後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、今井淳子、片岡大己

1 年生が初めて入院患者を受け持ち、講義・演習で学習した日常生活援助を実際に行
いながら、知識・技術・態度の統合を図り、また今後の看護学の学習に向け、看護実践
能力獲得の視点から自己の課題を明確にすることを目標としている実習である。

今年度は、計画通りに国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センタ
ーの 2 施設で実習を行うことができた。昨年と変更となった点は、基礎看護学領域の教

員のみで実習を担当したため、1週間ずつ2グループに分けて実習期間が2週間となった。基礎看護学領域の教員は1年生の講義・演習を通して学生レディネスを把握できしており、また、学生も講義・演習で慣れている教員が担当するため学生の緊張の軽減できたと考えている。

12) 看護過程展開実習：2年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、今井淳子、小川賀恵、荻田明子、泥谷朋子、三浦由紀子、村田加奈子、吉田亜希子、片岡大己

国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターで実習を臨地で実施したが、国立病院機構災害医療センターがコロナの影響で臨地実習を予定していた病棟数が減少したため、2施設の実習を臨地実習と自宅学習のハイブリット学習で実施した。開始前から臨床側との連携を密にし、教育体制を整えたため、学生は在宅と臨地での実習を統合することで思考の整理ができたと同時に、今後の自己の課題を明確にすることができた。初めての看護過程の展開実習であり、学内で学んだ看護過程の知識と実際の患者のケアを結びつけて思考・記載することの大切さを学生は実感することができた。今後も臨床側との連携を密にして、感染拡大を想定した状況に対応できる実習体制を整えていく必要がある。

13) 看護理論：2年次生後期

松谷弘子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのかを教授した。災害看護の視点から、異文化理解の視点を持つレイニンガーを含め10名の理論家を中心に教授した。グループワークでは、1名の理論家に対して2つのグループがプレゼンテーションを行い、理解が深まるよう全体討議した。最終レポートとして、学んだ10名の理論家について、理解したことをまとめる作業を行うことで様々な理論がより深く理解できるよう組み立てた。次年度は、理論について知識の定着を一層工夫して、理論に興味を持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

教育方針

成人看護学と老年看護学の二つの領域を合わせて、AYA世代から老年期まで、死を含めてこのライフステージにある人々を「統合された存在である人間」として捉え、その看護を検討する。具体的方法として、各概論、各論、実践論を科学的な理論とアクティブラーニングの二つで授業展開する。アクティブラーニングでは、デモンストレーション、ロールプレイング、グループディスカッションなどを積極的に用いる。このプロセスを経て、臨床実践の基礎となる臨地実習を臨床指導者と協働して結実させる。全ての科目

の知識・技術の根幹となる対象の理解については、教員の臨床経験、小説の名場面や名言、歴史的事実、社会現象、事件などを解説し、学生にとって未知である大人や高齢者への想像力を高め、「人が生まれ、成長し、死ぬ」というプロセスへの洞察や共感を養う。これらをもって、人生の意義を思考して自身の看護観、死生観を形成し、人々への愛と社会への使命をもって実践する看護師となる学生を育成する。

科目名

1) 成人看護学概論：1 年次後期

青木和恵、 藤村朗子、 櫻井敬子

成人看護学概論は、大人（成人）の特徴、健康と疾病の状況を学び、大人とは何か、さらに個人の人生と社会において大人であることの意味を理解し、これらから成人看護の意義とその方法を学修する授業である。この授業を受ける学生は、多くは20歳前後で大人の入り口にいるAYA世代であり、学生にとって大人は未知の存在である。そこで事例や例題の展開で、両親や祖父母など学生の身近な大人を想像できる内容とし、理論や概論を理解できるように進めていった。また歴史小説における名言、古今東西の格言などを多く取り入れ、学生の大人への関心と想像力を高め、自身の世代であるAYA世も含め、その健康問題や看護を理解し、医療問題や課題などを理解できるように教授した。授業を受ける学生は核家族、若者減少という世代背景の中で生活しており、加えて新型コロナウイルス対策によって対面授業をうける機会が少ないという条件も加わり、人との接触の少ない状況が続いている。これらの学生が広く長い幅をもつ大人というライフステージを理解することは難しいことである。さらに学生の想像力、推察力、関心、感性を高める授業の展開が課題である。

2) 老年看護学概論：1 年次後期

内藤亜由美、 岩渕起江、 折元美雪

老年看護学概論は、高齢者をライフサイクルと社会環境から全人的にとらえ、多様で幅広い老年観を学び、高齢者の健康を促進し、個々の人生において良い老年期生活、ひいてはその人らしいエンドオブライフを支援するための看護実践について学ぶ授業である。

学生にとって高齢者は未知の存在である。したがって、授業では身近な事例や社会的話題などを取り入れて想像力を高め、高齢者とその問題を身近に感じられるように授業展開を工夫した。その上で老年看護の内容、特に人権と安全などに関する倫理問題、意思決定とエンドオブライフケア、家族看護など、老年固有の課題を理解できるように、具体的事例と理論の解説に力を入れ展開した。

超高齢社会における統計データ、高齢者福祉・医療制度の部分は学生にとって苦手意識がある。そこで次年度は、学生が身近なこととして興味を持てるように、グループワークを取り入れ、学生自らが考える授業を展開していきたい。

3) 慢性期看護論：2 年次前期

櫻井敬子、青木和恵

生活習慣が及ぼす疾患を中心に対象を病とともに生きる生活者として捉え、ライフスタイルの変更を余儀なくされる成人期の発達課題をふまえ、社会生活での治療継続の困難さとそれを支える社会支援と連動させるように構成した。継続治療の必要性和治療中断に伴う危険性について、災害時を含め対象の自己管理能力の獲得に繋がる看護の必要性を講義に盛り込んだ。

がん、および非がん患者の緩和ケア、AYA 世代の苦悩、患者の意思決定における看護師の役割など臨床の取り組みを交え教授することができた。

オンライン講義ではチャットや投票機能を用いて学生の知識確認を交えて進行した。学生コメントでも講義中の知識確認となり、特に重要な点であることが意識できると回答しており、今後も継続していく。

臨地実習経験が少ない段階での講義時期であるため、患者・家族の生活の場を想起できる事例や、病態の理解を強化した講義を構成していく。講義資料は事前配布または WebClass を活用した運用を進めていく。

4) 老年期看護論：2 年次前期

折元美雪、内藤亜由美、岩渕起江

入院治療を必要とする高齢者の看護についての理解、高齢者に特徴的な健康障害についての理解を目標として展開した。講義は対面形式で、COVID-19 感染予防対策として 2 教室に分かれて行った。講義で取り上げた高齢者に特徴的な健康障害は、肺炎、パーキンソン病・パーキンソン症候群、骨折・骨粗鬆症、認知機能障害、うつ・せん妄であった。対象の学生は COVID-19 感染拡大の影響で実際の患者と接した経験が少ないことに配慮し、いずれの講義も学生の理解につながるよう図表を多く用いた資料を作成し、事例を取り入れる工夫を行った。高齢者看護についての講義に加え、高齢者の疾病に関する特徴を全人的に捉えることを目的にグループワークを行い、考えを他の学生と共有することで局所の臓器に関する解剖生理学の知識のみでなく複雑に影響する身体機能の変化について多角的に考える力を養った。評価は、Desknet's の回覧課題提出を含めた受講態度、英語問題を含む対面の試験で行った。

次年度は、新カリキュラムへの移行も念頭に置き、他の授業科目対応内容の照会も行いながら、授業内容を構築できるよう検討が必要である。

5) 老年看護実践論：2 年次前期

折元美雪 内藤亜由美 岩渕起江 大場久美 泥谷朋子

加齢による生活機能障害および特徴的な健康障害に対する高齢者への援助技術の習得を目的に講義・演習を行った。講義は概ね対面形式で行ったが、摂食嚥下機能障害における看護についての演習では遠隔授業で行った。ここでは、各々が加齢変化を想定した飲食の場面の疑似体験を通して学びを深め看護援助について考える力を養った。

講義では老年期看護論で病態や看護に関して基本的内容を学修した後に認定看護師を外部講師として招聘し急性期病院における認知症高齢者に対する具体的な看護の実際について深められるようにした。また、高齢者に特徴的な災害時における看護として専門看護師による実際の画像・具体的事例の提示を含めた講義を行った。

いきいきと生きる高齢者の健康的な生活を促進するヘルスケアシステムの活用とヘルスプロモーションの視点では、後期の老年看護学実習Ⅰでの実施に繋げる内容として集団を対象とするレクリエーションの企画、プレゼンテーションを実施した。

今後も同時に講義を展開している老年期看護論との調整を図り、効果的な授業形態を検討していく必要がある

6) 老年看護学実習Ⅰ：2年次後期

内藤亜由美、 岩渕起江、 折元美雪

今年度は、実習開始直前に COVID-19 第8波の兆しが出始め、実習施設でのクラスター発生が散発し、1施設から実習受け入れ中止、また一部施設より実習時間の短縮の申し出があった。しかしながら、2021年度に比べると受け入れ施設は6施設増加し、1施設以外は臨地実習が可能となった。昨年度は見学のみであったレクリエーション企画も、臨地で行うことができた。コロナ禍であっても実習を受け入れる体制づくりが整備されてきたと評価する。学内実習日には、高齢者疑似体験、昭和時代のDVD視聴、視聴後のカンファレンスを通して、高齢者が辿った時代背景について関心を深めることができた。一方で、22名の学生がCOVID-19感染・濃厚接触、ウイルス性腸炎、インフルエンザ感染で出校停止となり、実習の調整に大変な労力を費やすこととなった。冬季に高齢者施設への実習を行うことは、常に感染症のリスクと隣り合わせであることを再認識することとなった。

次年度は、実習時期の見直しと、学生への感染予防対策の徹底を行い、施設側も学生も安心して実習に臨むことができるように整備していく必要がある。

7) 急性期看護論：3年次前期

藤村朗子、 荻田明子、 三浦由紀子

急性期看護の基本概念、ストレス理論や危機理論など看護理論、疾病や侵襲的治療によって生命危機状態にある患者・家族の特徴について教授した。感染予防の観点から授業形態は遠隔授業と対面のハイブリッドで行った。事前に講義資料を一括で配布し、事前学習、事後学修の促進につながった。現在の急性医療現場での治療や看護について、具体的かつ最新のエビデンスに基づき教授した。次年度は、コアカリキュラム、学生のコンピテンシーに準拠した学修内容としていく。また、臨床経験のない学生が倫理的課題を想像するのは困難であるため、急性期看護の経験豊かな臨床看護師を招聘し、事例提示や解説、学生への発問などによって急性期における倫理的課題とはどのような場面で生じるのか、看護師としてどのように倫理的課題に向き合う必要があるのかなど教授いただく予定である。

8) 成人老年看護実践論：3 年次前期

藤村朗子、青木和恵、内藤亜由美、折元美雪、岩渕起江、櫻井敬子、荻田明子、泥谷朋子

成人看護学、老年看護学に必要な看護過程の展開、看護技術（一時救命処置、気管吸引、酸素投与、自己血糖測定）を教授した。成人看護学では、急性期、慢性期、終末期の事例にそれぞれの模擬患者と看護師役（4 年次生）、教育カルテを用いて実習さながらの状況設定のもと演習を実施した。各論実習を経験した 4 年次生からのデブリーフィングにより、実習やベッドサイドケアをイメージでき、実習に向けたレディネスが形成された。老年看護学は、高齢者の疑似体験やコミュニケーションの演習により高齢者の理解につながっていた。また、高齢者に必要な看護技術についても学修することができた。次年度は、よりアクティブラーニングを取り入れ、成人看護学、老年看護学の探求を促せるような授業設計としていきたい。

9) 医療安全学：3 年次前期

岩渕起江、青木和恵、櫻井敬子、荻田明子

医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護師の役割と責任について学修する授業である。本年度は医療安全の概念やヒューマンエラーに関する内容を初回に取り入れ、その後看護師の役割や法的責務について教授した。

学生が実際に起こった事例を検索することで医療事故に関する意識を高められるように工夫した。検索した事例から、P-mSHELL モデル、RCA 分析、TeamSTEPPS 等を用い、医療事故の発生から今後の対策までの解説を行った。演習ではこれまでの講義内容を参考に、提示された事例についてグループおよび個人の視点から分析し、医療事故の要因分析から今後の対策までを中心にディスカッションを行い、学びを共有した。

講義の終盤では、各論実習を控えていたことから看護学生が起こしやすい事故について、図や写真を用い学生がイメージできるような講義を展開した。

10) 看護管理学：3 年次前期

青木和恵、泥谷朋子

医療施設において、看護組織と各種医療チームを運営し、多職種チーム医療のリーダーおよびメンバーとして、組織の目指す看護実践を展開できること、加えて修得した知識によって、学生自身が医療者としてのキャリア形成を検討できることを目指した。まず日本の医療の現状と経済の状況を教授し、つぎに組織論として、日本の組織の形態と特徴、医療組織の形態と多職種チーム医療の特徴について説明し、看護部門における人材育成、労務管理、患者管理、安全管理などの解説を通して、看護管理とは何かを考察できるように進めた。多職種チーム医療のあり方についてはグループディスカッションを行い、キャリア形成については教員が自身のキャリアアップのプロセスをプレゼンテーションした。学生にとって実感の薄い遠い存在である「管理」というものを身近に感じられるように、さらに教員自身の経験や事例を取り入れ、積極的なアクティブラーニン

グを展開することが課題である。

11) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3 年次後期

藤村朗子、 荻田明子

急性期にある患者および家族を多角的に理解し、心身の危機的状況下から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの生活過程を整えるために必要な基礎的な看護実践能力を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の 2 施設で実習を行った。看護実践を通して、周手術期特有の看護技術である創傷管理、ドレーン管理、術後合併症予防、食事指導、退院指導などの看護技術習得もできた。特に指導場面においては、患者と双方向性の繋がりを実感し、患者の視点から医療・看護を捉えることができた。また、患者の体験の語りから周手術期患者を全人的に理解することの必要性や患者のニーズに沿って看護実践することの意味について考える能力を養うことができた。次年度は学修の公平性の担保という観点からも、全ての学生が集中治療室・手術室・救命救急センターでの実習ができるよう、実習内容の見直しを図りたいと考えている。

12) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3 年次後期

櫻井敬子、 藤村朗子、 岩渕起江、 折元美雪、 荻田明子、 泥谷朋子

慢性疾患を持つ対象の健康障害に適応する能力の維持・増進に向けた援助を促すための基礎的な看護実践を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの 2 施設で学修することができた。一部感染予防対策のため数日のオンライン実習で対応したが概ね臨地実習を行うことができた。実習オリエンテーションは WebClass に動画で視聴できるようにし、患者理解に対応する時間を設けた。患者の個別性にあわせ看護師、PT・OT・ST から助言を受けパンフレットの作成や、機能回復のための訓練することができ、多職種との連携を体験する事例も多くみられた。病棟の学習会参加や退院支援に直接かかわる SMW のレクチャーを受ける機会を設け、退院後の生活を見据えたかかわりの必要性を学修した。施設の病院機能の違いは学生のディスカッションにより、学修の共有を行った。受け持ち患者の血液透析室看護を体験する事例もあり、次年度透析室見学を企画し継続看護の必要性の理解を深められるように計画している。

13) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3 年次後期

青木和恵、 内藤亜由美、 荻田明子、 泥谷朋子

人生の終末を生きる対象患者を全人的に理解し、加齢や疾病から生じる苦痛を緩和し、患者が自身の終焉と向き合い、臨終までをより良く生きるための看護実践を学修することを目的とする臨地実習である。国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の 2 施設で実習を行った。終末期の医療実践については、医療者が死生観を持つことが大切となる。そこで今年度は、特に死生観に関するカンファレンスやデ

イスカッションに力を入れ、学生の死生観の形成に働きかけた。これと並行して担当患者の看護過程の展開を進め、終末期看護という全ての医療に必要な看護実践を学修できるように図った。新型コロナ感染対策で必要となった変則実習および学内実習では、学生が時間をかけて深く丁寧に学修することとなり思考力の養われる実習となった。今後は通常の臨地実習にこのような方法に取り入れていきたい。

14) 老年看護学実習Ⅱ：3年次後期

岩渕起江、内藤亜由美、折元美雪

病とともに生きる高齢者を全人的に理解し、健康回復の促進に必要な基礎的な看護実践能力を身につけることを目的に国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの2施設で実習を行い、本年度は全クールの実習が臨地で可能となった。急遽出校停止となった場合はオンライン実習に切り替え、実習目標を到達できるよう指導を行った。また、本年度は2週目の木曜日に本科目の学生の各グループがテーマに基づいたディスカッションによる合同カンファレンスを実施し、実習目標の到達度で自己評価が低い内容を補った。実習中は入院治療中の高齢者を理解していくうえで病態のアセスメントが中心となりがちであったが、加齢による変化と関連付けることができるように適宜指導していった。実習中に家族への対応はできなかったが、看護と家族関係、患者の入院が家族に及ぼす影響などに関しては、患者や指導者から得られる情報をもとにアセスメントをすすめた。

次年度は、高齢者の倫理的課題と多職種との連携に関する学修内容が深められるよう検討していく必要がある。

【小児看護学領域】

教育方針

小児看護学では、子どもの成長発達と子どもと家族の取り巻く環境を理解し、対象者の健康増進に必要な看護を実践するために基盤となる知識を修得する。科目は「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」から構成し、講義は教育内容に応じて対面授業とリアルタイム型オンライン講義を組み合わせで行った。小児看護に関心をもて、より主体的に学習ができるように、成育医療研究センタースタッフ・患者家族も参加した講義の展開や一部 PBL 学習を取り入れた授業を展開した。

科目名

1) 災害看護学Ⅰ：1年生前期

久保恭子

目的は災害看護に関する基本的知識を理解し、災害時に必要な救急法を学ぶことである。

内容は災害看護の定義、災害サイクル、トリアージ、災害時の心のケア、被災者・被

災地域の看護者からの講演、救急法・包帯法であり、心のケアでは本学の特徴として整備遺体について盛り込み、教育内容に応じて対面授業とリアルタイム型オンライン講義・演習を組み合わせで行った。災害看護に関する基本的知識を学習した後、東日本大震災を経験した被災者からの体験を聞き、災害サイクルに沿った看護について想像し、考える機会となった。また、講義の後、被災者と学生とのディスカッションにより学びを深めることができた。次年度は同内容にプラスして、被災者特性と災害時の看護について講義を追加し、災害看護Ⅱへ繋いでいくこととする。

2) 小児看護学概論：2年次後期

久保恭子

目的は子どもの成長発達と子どもを取り巻く環境を理解することである。内容は小児医療・看護の歴史の変遷、小児看護の定義、小児の成長発達、子どもの人権、保健統計の動向と法整備、時代にそった小児看護の役割と課題等である。講義・演習内容はリアルタイム型オンライン講義と対面講義を組み込み、問題志向型学習（PBL）を一部取り入れ学習を進め、各グループの発表により全学生で学びを共有した。次年度は成育医療研究センターのスタッフによる小児病院の特徴と看護、小児看護師のキャリアアップ、小児看護の課題である移行期看護についての講義を追加する。

3) 小児看護学実践論：3年次前期

久保恭子、宍戸路佳

目的は疾病や障害の有無に関わらず、子どもと家族への支援内容を理解し、対象への看護を学ぶことである。授業は、リアルタイム型オンライン講義と対面講義、演習で展開した。講義では一部、成育医療研究センターのスタッフによる事例を用いた臨場感あふれる内容を盛り込み、看護技術の教授でも成育医療研究センターのスタッフと共に、最新の医療・看護技術も盛り込んだ演習に繋げた。実習先のスタッフによる講義や演習を展開したことにより、実習病院での患児と家族や看護の様子をイメージでき、実習への準備性の高まりを確認できた。次年度は小児看護の課題でもある子どもの事故と救急対応の講義を入れ込み、子どもの事故死の予防についての講義を追加する。

4) 小児看護学実習：3年次後期

宍戸路佳、久保恭子、非常勤助手

小児看護学概論及び小児看護学実践論で学んだことをもとに病院あるいは家庭で療養・生活している子どもと家族の健康上の問題を解決するための援助を考えられるようにした。今年度より実習施設の実習受け入れ状況の変化に伴い、実習形態を変更した。病棟での実習期間が短縮となったがその中でも子どもがもっている疾患、状態について考え、子どものもつ力や成長発達を考えて援助を行う大切さなどが学べていた。また、全員が外来実習は実施でき、地域で暮らす子どもと家族に必要なケアについても考える一助になっていた。一部、病院実習や保育園実習が今年度も行えず、学内実習となった

学生もいたが、映像や子どもの状態を想起できるように工夫し、個別性の重要性や観察することの大切さを学んでいた。次年度も引き続き限られた実習期間の中で子どもと家族の看護について見出していけるように学びをサポートしていく必要がある。

5) 看護教育：4年次後期

久保恭子

日本の看護教育の変遷、近代看護の発展と災害看護・看護教育との関わり、諸外国と日本との看護教育の相違について教授した。教育方法の変遷を紹介し、アクティブラーニングとして、学生は模擬授業を計画し、映像や ICT を使った看護教育の方法と効果について確認した。

【母性看護学領域】

教育方針

母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。看護実践力の育成をめざして、科目は母性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。

妊娠・分娩・産褥・新生児期の母児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。

授業は教育内容に応じて、リアルタイム型オンライン講義と対面授業を組み合わせ実施した。母性看護に関心を持ちアクティブに学習に取り組めるように、個別学習としてのフィールドワークや妊婦体験学習、対面での看護技術演習、シミュレーションの実施などの工夫を行い、目標達成ができるように授業を展開した。

科目名

1) 母性看護学概論：2年次後期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

目的は女性の性と生殖に関わる健康をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から捉え、母性各期における援助法および母性看護の役割について理解を深めることである。内容はリプロダクティブヘルス・ライツ、セクシュアリティ、看護の対象、ライフサイクル各期の看護、保健統計の動向、法整備等である。授業は対面とリアルタイム型オンライン講義で実施した。

アクティブラーニングとしての個別学習では、立川市子育てひろばでのフィールドワーク・妊婦体験・基礎体温の分析に関する課題レポートを課した。教員自作のガイダンス動画「子育て広場でのフィールドワーク学習方法」を視聴してもらった後に、立川市の子育て広場の協力を得て、2回のフィールドワークをリアルタイム型オンラインで実施したことである。教員1名が広場に出向き、テレビ会議システムで母親と父親に、学

生が出産や子育ての状況をインタビューした。参加学生は子育ての悩みややり甲斐、母性看護への期待について把握し、理解が深められた。

また、女性のライフサイクル各期の健康課題に関するグループワークでは、全体発表で学びを共有し、討議した。討議を通じて、講義内容の理解がより深められた。

2) 母性看護学実践論：3年次前期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

目的は妊産褥婦および新生児と家族へ支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことである。授業は、リアルタイム型オンライン講義と対面による演習で展開した。看護技術の教授では教員自作の「基本的技術の自己練習のための動画」を講義で活用し、「新生児の健康診査」「新生児の沐浴」「褥婦の健康診査」の演習に繋げた。在宅での自己学習用に、新生児モデルを学生に貸出した。

技術の到達度は、在宅で練習後に撮影した「沐浴」動画をWeb class にアップロードしてもらい、教員が視聴しチェックリストに沿って評価した。評価のフィードバックは、対面で個別に行い、スキルを助言・指導した。

評点が80点に達しない学生には、不十分な手技について対面で指導し、再度自己練習を求めた。結果、全員が合格に至った。

工夫点は、ベットサイドで褥婦と新生児の健康診査を行い、自らの看護計画による助言指導することを課した、シミュレーションを全員が個別に実施した。結果、具体的な看護計画と褥婦の理解度を確認しながら助言する必要性に気づくことができ、実習への準備性の高まりを確認できた。

3) 母性看護学実習：3年次後期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

実習の目的は、妊産褥婦および新生児とその家族の健康課題を査定し、健康を維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことである。臨地実習は、3施設4病棟で展開した。コロナ感染対策下での実習ではあったが、褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を学生1人当たりほぼ2組の母児に実施できた。学生は、母児の健康診査、授乳の介助、新生児の沐浴等の実施、保健指導の見学等が経験できた。教員は、受け持ち事例に必要なケアが実施できるように、臨床指導者と連携しながら個別に指導した。

直接、受け持ち事例にケアができない1施設では、指導者に同行する見学が主体となったが、計画した助言内容を褥婦に説明する機会等は確保できた。

実習指導において、個々の学生の理解度と解釈の程度を確認し、タイムリーにフィードバックした。個別指導において、やりとりを重ねる中で、看護過程の理解ができるようになり、翌日の看護の視点が見出せるようになったという、学生の反応が得られた。

全体評価としては中核的な内容において、学生全員が目標の達成に至ったといえる。

4) 疾病と治療Ⅳ：2 年次前期

衣川さえ子、榛澤望、野田治久、河崎智樹

目的は泌尿器系、生殖器系、内分泌系の器官における主要な疾患について、病気のプロセスと病態生理、症状、診断の基準、検査データ、治療方法、予後等を理解することである。

講義は、リアル型オンラインにより実施した。女性生殖器疾患の講義では、内容が具体的にイメージできるように、DVD 等の視聴覚教材を活用した。既習の解剖生理学を想起させながら、疾病による形態・機能の変化や病態を理解できるように資料を作成した。その疾患と関連する健康問題を提示するなどして学生の関心が高まるように工夫した。また、婦人科診察で用いる陰鏡の提示を行うなど、リアリティをもたせて講義を展開した。講義後の復習を促すために小テストを実施し、知識理解の定着を図った結果、一定の成果が確認できた。

【精神看護学領域】

教育方針

災害時も含めた様々な日常生活場面における精神保健、及び身体・知的・精神障害を持つ人々のセルフケアの回復・維持・増進にむけた看護展開に必要な知識・技術・態度を、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

科目名

1) 臨床コミュニケーション論：2 年次前期

村松仁、柳橋正智・小川賀恵

治療的コミュニケーションの必要性和効果を理解し、治療的コミュニケーションを活用するために必要な知識と技術、態度を総合的に学修することを目的とした。

昨年度に引き続き、COVID-19 対応のため対面講義と Web による遠隔講義を組み合わせで行った。コミュニケーションに関する基本的な知識に関する講義にあわせ、コミュニケーション技術に関する資料映像の視聴を行い、治療的コミュニケーション技法の理解を促した。

また、プロセスレコードについては、これまでの実習体験から自己のコミュニケーションの振り返りを行うことで、自己のコミュニケーションの課題を検討することができた。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニッツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。

2) 精神看護学概論：2 年次後期

村松仁、柳橋正智、小川賀恵

精神健康の定義や精神機能、精神発達、精神の危機とその反応、精神医療と精神看護の歴史的背景と今日における精神看護の課題の理解等を学ぶことを目的とした。

昨年度に引き続き、遠隔講義で講義を行った。講義内容は、精神健康（こころの健康）の定義、ライフイベントにおける精神保健、精神構造と機能、ストレスとその対応、精神医療と看護の歴史的背景、医療における精神障害者の人権擁護、精神保健福祉法などについて、資料映像の視聴も交え講義を行った。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニッツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い講義内容の補完ができた。

次年度は対面での講義を行い、精神看護学の基礎的な知識の理解が促進されるよう、講義を展開したい。

3) 精神看護実践論：3 年次前期

村松仁、柳橋正智、小川賀恵

精神障害及び精神の健康障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患の特徴と治療や精神障害を持つ人に対するリハビリテーション、利用できる社会資源、精神症状の観察ポイントとアセスメント、精神の健康障害を持つ人の回復（リカバリー）を目指した看護について、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。

特に、精神の健康障害を持つ対象者回復（リカバリー）を目指した看護について、紙上事例を元にした看護過程の基本的な展開が学ぶことができるよう、精神症状と生活障害（セルフケア）の関連の理解、生活障害（セルフケア）の回復に必要な看護計画の立案に係る思考力の向上に努めた。

また、災害時のケアの実際、心的外傷後ストレス障害やレジリエンスなど、災害時と関連する内容についても理解を深められるよう

本年度は遠隔講義と対面講義を併用し、看護過程の展開にグループディスカッションや発表会を設け、アクティブラーニングの充実を図った。

また、各講義でミニッツレポートに講義内容の学びと疑問点を記載してもらい、次回講義で理解しにくい点を補足、フィードバックできるよう工夫を行った。

次年度は、今年度に引き続き、精神の健康障害を持つ対象者への看護の理解が深まるよう、グループワークによるアクティブラーニングを活用し、看護実践力の向上につながるような講義を行いたいと考えている。

4) 障害者看護論：3 年次後期

村松仁、柳橋正智、小川賀恵、外部講師

障害に関する定義、障害者の対応に関する歴史的・社会的背景と課題を理解し、障害者に対する適切な医療・看護実践のあり方について考察を深めることを目標に講義を行った。講義では、障害の捉えかた、障害を持つ人に対する歴史的な経緯とその課題の検

討、障害を持つ人に対するリハビリテーション等について、視聴覚教材やグループディスカッションを活用し、アクティブラーニングを活用しながら障害の持つ意味および障害を持つ人と看護の役割について学生の考察が深まるよう講義を行った。また、今年度は、ゲストスピーカーとして社会福祉の立場から障害を持つ人を支えることについて実践活動を元に講義を行って頂き、幅広い障害者支援について教授することができた。

次年度は、障害を持つ人の支援について社会的な見地からの考察が深まるよう、内容を検討し講義をしていきたいと考えている。

5) 精神看護学実習：3年次後期

村松仁、柳橋正智、小川賀恵

精神に障害をもつ人を心理社会的・精神的・身体的側面から全人的に理解し、セルフケアの回復に向けた基本的な看護の検討および技術を身に着けることを目的として、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院（病棟・デイケア）、公益財団法人井之頭病院（病棟・デイケア）を実習施設として実習を行った。

実習展開は、精神科病棟と精神科デイケアでの実習を組み合わせ、急性期の入院治療から社会復帰・社会参加期の地域精神保健まで、精神障害を持つ人が治療を受け、回復していく時間軸を意識して精神医療における継続支援について理解できるよう工夫を行った。病棟実習では治療的コミュニケーションを活用しながら対象理解を深め、セルフケアの回復に向けた看護実践の理解ができた。また、精神科デイケアでは地域で生活している精神障害者への支援について、当事者との関わりを通し理解を深めることができた。

次年度も精神科病棟と精神科デイケア実習を組み合わせ、精神障害を持つ人に対する入院と地域生活での全人的な支援の理解が深まるよう、実習を進めて行きたいと考える。

6) チーム医療論：4年次後期

村松仁、柳橋正智、小川賀恵

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種（災害医療センター、診療部長、看護部長）を外部講師として招き、医師および看護部長の立場から実際のチーム医療の展開について講義を頂き、実際のチーム医療の展開について理解を深めることができた。

昨年度に引き続き、COVID-19 対応のため、遠隔講義と対面によるチーム医療の展開に関する事例検討のグループディスカッションを行った。

本講義で、学生はチーム医療に関する事例の検討と討議を行うことで、チーム医療の展開についてより深く学習することができた。

次年度も今年度の内容継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したい。

【在宅看護学領域】

教育方針

今年度から新カリキュラムとなり、地域・在宅看護論として統合科目から専門科目に位置づけられた。これにより、1 年次から 4 年次の各学年にわたって授業を進めることになった。このため、保健・医療・福祉を総合的に学び、様々な健康レベルの対象者に対して、継続看護と在宅看護の重要性を学ぶことを目的として、1 年次には、地域・在宅看護学概論で一次予防～三次予防の概念と看護職の役割を系統的に学び、2 年次の地域・在宅看護学支援論で、住み慣れた場でその人らしい療養生活が継続できるよう在宅看護の役割や支援方法、多職種と協働し、対象のセルフケア能力を高めるための知識、技術および態度を身につけることを目指す内容とした。さらに 3 年次、4 年次の在宅看護学実践論で実践力を身に付ける内容とし、在宅看護学実習につなげる内容とした。

次年度も新カリキュラムの進捗に合わせて地域・在宅看護学の科目の授業内容を見直すことが課題である。

科目名

1) 地域・在宅看護学概論：1 年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

地域・在宅看護学概論は、新カリキュラムとなり、今年度から新たな科目である。これまで 2 年次後期の地域看護学概論および 3 年次前期の在宅看護学概論の内容を 1 年次後期で講義するため、学生が地域における保健・医療・福祉の制度のもと、住民の健康の保持・増進から在宅療養者の看護など、様々な健康レベルの住民に対して、一次予防から三次予防の重要性と看護職の役割について理解することを目指した。特に、健康寿命の延伸を目指す一次予防の重要性と在宅看護が必要となった要因について、統計データを読み解きながら、人口構造の変化や制度の改正、価値観の変化や看取りの場の選択など、社会的背景を捉えながら多様なニーズがあり、宅看護を学ぶ重要性について教授した。また、1 年次前期の体験実習で体験した内容を加味し、さらに自分が住む地域の保健・福祉施設や健康増進計画や障害者福祉計画などを調べたりすることで関心が高まり、地域に則した政策や保健・医療・福祉が提供され、それらをつなぐ看護職の役割が重要であることが学べたと考えられる。

次年度も、地域に関心を持てるよう課題学習を取り入れたいと考えている。

2) 地域看護学概論：2 年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

地域看護学概論は、継続看護の必要性和地域で活動する看護職に求められる役割と、多職種多機関との連携・協働とネットワークづくり、ケアマネジメントの基礎を学ぶことをねらいとしている。また、疾病予防看護学の授業との連動を考えて、週 2 コマのペースで授業を実施した。地域で生活する人々の健康と QOL を高めることを主眼とする地域看護活動について、地域において展開されている看護活動の全体像と基本的な考え方

について学習した。さらに、各ライフステージにおける健康指標と健康課題、および看護職の役割と具体的な活動について学修することを目指した。地域で生活する人々の健康を支える保健師の役割についても、連携する看護職として関心をもってもらうようにした。また、事前・事後課題で自分が住む地域の社会資源や障害者福祉計画等を調べて自分が住む地域の制度や障害者への関心を持ってもらうことで、制度の理解につなげる工夫を行った。

次年度は、新カリキュラムにより地域・在宅看護学概論と地域・在宅看護支援論に科目内容が変更となるため、自分の地域を調べることで関心を深めるなどの工夫をしたい。

3) 疾病予防看護学：2年次後期

テイラー栄子、桜井礼子、村田加奈子

これからの看護師に必要となるヘルスプロモーションの概念、健康増進方策などを理解し、ライフサイクルに沿った健康課題に対して健康教育の企画、プレゼンテーションをすることを目的とした。講義は、個人学習やグループ学習ができるように構成し、学生が講義の内容を能動的に学べるように、反復学習や分散学習の機会を取り入れている。健康教育の企画は、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、アクティブラーニングができるように組み立てている。グループ学習では、講義で教授したエンパワメントの一手法であるアイスブレイクを取り入れ、グループダイナミクスを発揮できるような仕組みを作った。結果、グループメンバーが主体的に関わり、楽しく課題を進められた、とコメントが寄せられた。また、授業後の課題に関しては、次の講義でフィードバックをし、学生の学びの共有をはかり質問に答えるようにしている。

学生の理解度の把握に努め不足している点は、授業資料の改善をしている。来年度は、15コマに増えるので、看護職として地域住民の健康増進ができるのか、より主体的に学べる演習としていきたい。

4) 自立支援教育論：2年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

自立支援教育論では、慢性疾患や障害などのさまざまな健康課題を抱えた対象者に対して、課題解決に向けたセルフケア能力の育成や自己効力感を高めるための理論を活用し、意思決定支援、自立支援へとつなげる手法を学ぶことを学修目標とした。また、自立支援のための情報提供や行動変容のプロセスを理解し、効果的な個別健康教育・保健指導の方法について理解することを目指した。講義では事例を通して自立支援の実際を説明するなど工夫を行った。また、保健指導のグループワークは、保健指導の場面を設定し、教員が対象者役となりロールプレイを組み込んだ演習とした。ロールプレイを行うことで、情報収集の難しさや、個別性・実行性のある保健指導の目標設定、計画立案の重要性に気付くことができていた。最終レポートからは、対象の行動変容を促すための知識・技術として、生活と健康課題を結び付けるための病態を含めた知識やアセスメ

ント力の獲得、またコミュニケーション能力を高めることを課題とした学生が多かった。

次年度も、効果的な個別教育・保健指導の技術が身に付けられるように授業内容を工夫していきたく考えている。

5) 家族看護学：2 年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

家族看護学は、家族の役割機能、現代の家族の諸問題に視点をおき、自らの家族観を見つめ直すこと、また、家族を単位とし様々な視点で家族をとらえる見方を養い、疾病や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族看護の意義と役割を学ぶことをねらいとした。時代とともに多様化する家族形態、家族のあり方や家族の特性、家族をアセスメントする視点と情報収集の項目を提示し、学生が実習で家族と接する機会が少ないことも考慮し、家族のライフステージと発達課題、および健康危機などの事例を提示しながら、事前・事後課題を活用して、家族の多様性と家族看護について学生が考えることができるよう講義をすすめた。また、各回で課題をまとめてもらうことで、家族看護の重要性について学びが深まったと評価している。

次年度も、学生がイメージしやすいよう事例を提示しながら、看護職としての家族観、家族のセルフケア機能を高めるための家族看護の基本的な考え方や役割について、学生が主体的に思考し学ぶ工夫をしていきたい。

6) 災害看護学Ⅱ：2 年次後期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子、外部講師

災害看護学Ⅱでは、災害看護Ⅰで学修してきた内容を踏まえて、災害時の医療・看護活動の基盤となる災害対策の法的根拠や、発災時から変化する状況下で、多職種と連携・協働しながら、災害サイクルにそって医療および看護活動を展開するための知識・技術・態度について学修することを目標とした。特に災害拠点病院の役割や発災時の医療施設の対応や被災者への支援については、災害医療センターから講師を招聘し、災害拠点病院の災害対策の実践、災害訓練の実施内容、また、一次トリアージ（START 法）の演習をトリアージタグの記載と併せて演習を行った。さらに体験を通して理解するために、災害医療センターの防災訓練に参加を予定していたが、今年度も COVID-19 の影響で訓練は中止となった。このため、災害訓練の動画視聴と、DMAT インストラクター2 名の方々の国内・国外での災害活動の講話を行っていただくことで、今後の学習の動機付けにつながる学びとなっていた。

次年度も、災害訓練の参加など、体験を通じた学びとなるような授業を工夫していききたい。

7) 在宅看護学概論：3 年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子、外部講師

在宅看護学概論では、地域で生活する療養者とその家族の療養生活をイメージでき、

そのケアニーズが考えられること、また、療養生活を支える制度や社会資源と、在宅ケアマネジメントにおける看護師の役割、および多職種との連携・協働について理解することを目指した。訪問看護の場面や在宅で療養する人々とその家族のニーズが理解できるよう DVD などの視聴覚教材を活用し在宅看護のイメージ化を図った。また、地域包括ケアシステムのもと、介護保険、医療保険の仕組みと医療・介護の連携、地域包括支援センターや地域ケア会議の役割と機能などを理解することで、対象者個々が抱える健康問題にそった支援方法や在宅ケアを取り巻く現状と課題に対して、学生が対象者の問題解決の方法を考えることを目指した。

次年度は、新カリキュラムとなり 2 年次に地域・在宅看護支援論で教えるため、学生の実習体験を踏まえた継続看護の視点と、地域で生活する療養者とその家族に対する訪問看護の実際および社会資源の活用方法について理解を深め、退院支援などの重要性を理解してもらい、3 年次の各論実習の実践的な学びにつなげたいと考えている。

8) 在宅看護実践論Ⅰ：3 年次後期

テイラー栄子、桜井礼子、村田加奈子、青木和恵、内藤亜由美、外部講師

本講義は、在宅看護学実践論Ⅱ、在宅看護学実習へと知識から実践に向けて思考を深めることを目指し、安心安全な在宅ケアの提供と療養者・家族のニーズに応じた在宅ケアの看護実践を考えることができることを目的としている。領域の教員が共同して講義・演習を進める実践論Ⅰではコマシラバスを作成し、毎年シラバスの改善を重ねている。多職種と連携し多角的な視点で療養生活・医療的管理支援技術が自ら考えられるように授業を展開した。具体的には、反転講義、視覚教材の活用、そして事例を基にシミュレーション、グループディスカッション、ロールプレイなどを活用し、各単元後には学生に課題を課し、思考を深められるようにした。本年度はヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントを各単元の共通項目として力を入れ、各分野で活躍している講師を迎え、また成人老年看護学領域の WOC の教員と連携しアセスメントからケアを教授した。学生からは今までの知識が体験をもとに統合されたと好評であった。

これらが 4 月からの在宅実習にどのように活かされているのか、学生の実践を分析、評価して次年度のシラバスに反映していきたい。

9) 在宅看護実践論Ⅱ：4 年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

療養者・家族が安心・安全な療養生活を継続するための、在宅療養環境や在宅ケアシステムの理解、および地域における多機関・多職種と連携した継続看護と支援方法の展開を学習目標とし、「地域診断」および「在宅看護過程の展開」の演習を行った。「地域診断」は、市および地域包括支援センターが管轄する地域を対象として、既存の統計データや報告書、社会資源などの情報収集を行い、地域特性および健康課題について分析を行い、在宅看護学実習（地域包括支援センター）の資料とした活用した。「在宅看護過程の展開」は、在宅看護学実習で使用する記録用紙を用いて、訪問事例のアセスメント

から全体像と看護課題の抽出、看護計画の立案とした。さらに、訪問計画として、訪問の準備、訪問時の看護実践の計画、訪問後の情報共有や他職種への情報提供などを立案した。限られた時間内での訪問看護の実践を考えることの難しさが実感できたと考える。

次年度は、「在宅看護過程の展開」では、訪問計画の実践内容のロールプレイを演習に加えて看護技術の見直しを行い、在宅看護学実習につなげたいと考えている。

10) 在宅看護学実習：4年次前期

桜井礼子、テイラー栄子、村田加奈子

在宅看護学実習は、地域で生活する療養者とその家族および療養環境に関する理解を深め、健康・生活上の課題とその支援方法について実践を通して学ぶことを目標とした。

今年度も COVID-19 の影響が続いている時期だったが、訪問看護ステーションでは2週間

(10日間)のうち6～7日間を施設実習として受け入れていただいた。学生は訪問看護師との同行訪問で、受け持ちの療養者の看護過程の展開を行い、療養者と家族の在宅療養のニーズの把握と看護計画の立案し、看護実践の必要性を考えることができていた。

また、地域包括支援センター実習は、約10名を1グループとし、実習指導者と学生を遠隔でつなぎ、指導者から管轄する地域の特性にそったセンターの活動と看護職の役割などの説明を受けた。さらに学生が事前学習で作成した地域診断をもとに、学生と指導者間でディスカッションや質疑を行うことで、地域の特性にあった介護予防の事業等の実際を学ぶことができたと評価している。

次年度も、訪問を看護ステーションでの施設実習日を確保することで、療養者と家族への直接的なケアの体験を通して、学びが深まることを期待したい。

7. 業績

【看護基盤学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

- 江津繁, 長田恵子 (2022). 9章 防災・減災リスクマネジメント 3節災害時の組織体制 1病院における災害時の組織体制. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), 247-251, メディカ出版, 東京.
- 長田恵子 (2022). 4章 災害時の支援体制 2項災害医療体制 1 災害拠点病院, 2 医療・保健チーム. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), 83-89, メディカ出版, 東京.
- 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美 (2022). ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), メディカ出版, 東京.

2. 論文等（原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料）

- 後藤宇慧, 井上祐華, 入澤法子, 大熊彩香, 川南美春, 栗山瞳, 桑澤里彩, 斉藤瑞稀, 白井麻央, 杉村江莉佳, 見山莉奈, 今井淳子, 三浦由紀子, 堀田昇吾, 高木晴良 (2022). COVID-19 パンデミック下における感染拡大予防行動に関連する要因. 東京医療保健大学紀要, 16 (1).
- 川鍋奈月, 居上愛, 小林優思, 土井一真, 山敷翔, 今井淳子, 三浦由紀子, 堀田昇吾, 高木晴良. (2023) 日本学校に在籍する外国人の防災意識に関連する要因. 東京医療保健大学紀要, 17 (1).
- 長田恵子 (2022). データ分析に基づく「看護サービスの質評価」を組織文化に -トップマネジメントの立場から-. 看護管理, 32 (6), 446-451
- 作田裕美, 堀田昇吾, 上野寿子, 新井 龍, 桜井 礼子, 太田 勝正, 草間 朋子, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二. (2023). 「病院における放射線防護・安全教育の実態と課題-KJ 法を用いた分析から-. 日本放射線看護学会誌, (早期公開), 1-10.

3. 学会における発表

- 堀田昇吾. 看護職にかかわる放射線防護の“今”と“これから”「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドラインの紹介と今後の展望」日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)
- 堀田昇吾, 加藤知子, 佐藤潤, 吉田浩二, 野戸結花, 小嶋光明, 赤羽恵一, 太田勝正, 明石眞言, 草間朋子. 住民支援のための看護職で構成する「原子力災害保健支援チーム (NuHAT: Nuclear disaster Health Assistance Team)」に関する検討. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)
- 加藤知子, 堀田昇吾, 他. 原子力災害保健支援チーム (NuHAT) メンバーに対する放射線リスクマネジメント教育についての検討. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)
- 野戸結花, 小嶋光明, 西沢義子, 太田勝正, 小山内暢, 堀田昇吾. 放射線看護モデルシラバスの活用に向けて-モデル授業 その 3 放射線の健康影響-. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)
- 作田裕美, 堀田昇吾, 他. 放射線防護・安全教育の実態と課題. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)
- 作田裕美, 堀田昇吾, 他. 日本放射線技術学会 日本放射線看護学会共同企画「放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の方向性-今後のあり方・やり方-. 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web)

堀田昇吾, 他. 病院所属の放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の実態. 第 50 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2022 年 10 月 7 日, 東京.

森脇睦子, 林田賢史, 長田恵子, 堀口裕正, 梯正之. 病棟のアクティビティと転倒転落発生に関する分析～転倒転落発生を病棟環境要因の視点からの検討～. 第 17 回医療の質・安全学会学術集会, 2022.11.26-27, 神戸.

藤村朗子, 田野將尊, 堀田昇吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 岩渕起江, 穴戸路佳, 柳橋正智, 桜井礼子, 福田 敦子, 鵜田 美奈子, 高見沢愛弓, 大賀 一郎, 武下 佳代, 橋本 佳美. 看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方(交流集会) 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日. 広島.

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野將尊, 堀田昇吾, 高見沢愛弓, 鵜田 美奈子, 福田 敦子, 森 由美子, 橋本 佳美, 大賀 一郎, 武下 佳代. 看護基礎教育における看護技術内容の検討 一新卒看護師のアンケート調査を通して. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日. 広島.

三浦由紀子, 松山妙子, 藤村朗子, 田野將尊, 堀田昇吾, 高見沢愛弓, 鵜田 美奈子, 福田 敦子, 森 由美子, 橋本 佳美, 大賀 一郎, 武下 佳代. シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究 一看護大学 4 年生と新卒看護師の比較から. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日. 広島.

堀田昇吾, 今井淳子, 高木晴良. 災害拠点病院における災害時に備えた病者用食備蓄の実態調査. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 9-11 日, 盛岡.

今井淳子, 堀田昇吾, 高木晴良. 特別治療食を必要とする慢性疾患患者の非常食備蓄に関する実態調査. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 9-11 日, 盛岡.

南嶋里佳, 宮本純子, 三浦由紀子, 岡本美代子, 豊国義樹, 夏川知輝, 中森知毅, 久保達彦, 甲斐総一郎, 稲葉基高, 横堀將司. 国際緊急援助隊における IEC の取り組み. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 9-11 日, 盛岡.

岡本美代子, 宮本純子, 三浦由紀子, 南嶋里佳, 豊国義樹, 甲斐総一郎, 稲葉基高, 夏川知輝, 久保達彦, 横堀將司, 中森知毅, 大場次郎. 国際緊急援助における医療チームの遺体管理についての考察. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 9-11 日, 盛岡.

4. 研究助成および研究成果報告書

堀田昇吾. アクティブ・ラーニング手法を用いた放射線看護教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2019 年度-2022 年度.

久保恭子, 坂口由紀子, 倉持清美, 鮎澤衛, 岸田泰子, 高木晴良, 穴戸路佳. 保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故の分析と予防対策プログラムの検討. 日本学術振興会科学研究費補助金, 挑戦的研究(萌芽). 2019 年度-2022 年度.

高木晴良, 堀田昇吾, 今井淳子. 特別治療食を必要とする人への災害時非常食支援のガイドラインの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2019 年度-2022 年度.

高野貴子, 高木晴良. 妊娠を希望する人々への基礎データの提供-児の染色体異常の解析-. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2021 年度-2024 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

長田恵子

- 1) 日本看護協会認定看護師制度委員会委員 2022.4
- 2) 一般社団法人日本災害看護学会 2022 年度第 1 回災害看護教育セミナー講師: 病院における継続的な災害看護教育への取り組み. オンライン 2022 年 11 月 19 日、オンデマンド配信 2022 年 11 月 27 日～12 月 17 日
- 3) 日本看護協会看護管理者の育成、マネジメント強化事業認定看護管理者による相談支援講師: 鳥取県立厚生病院. 2023 年 1 月 11 日, 1 月.31 日.

- 4) 日本医療安全推進学会代議員 2022 年 11 月.
- 5) 東京都看護協会認定看護管理者教育運営委員会委員 2022 年 4 月.
- 6) 日本災害看護学会災害看護用語検討委員会委員 2022 年 4 月.
- 7) 立川警察署協議会委員 2023 年 1 月.

高木晴良

- 1) 生物統計学. 早稲田大学教育学部. 2022 年 4 月-7 月.
- 2) 統合実習(医療情報). 帝京大学医学部. 2022 年 6 月-7 月.
- 3) 健康管理論. 岐阜県立看護大学. 2022 年 10 月-2023 年 1 月.
- 4) 情報科学. 帝京高等看護学院. 2022 年 4 月-6 月.
- 5) 保健医療福祉行政論. 亀田医療大学. 2022 年 8 月.
- 6) 専任教員研究研修研究技法(量的研究). 遠隔講義. 2022 年 12 月.
- 7) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 基礎編 I & II. 杏林大学. 2022 年 9 月. (配信)
- 8) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 応用編 I & II. 杏林大学. 2023 年 3 月. (配信)

堀田昇吾

- 1) 日本放射線看護学会 広報・渉外委員会 委員.
- 2) 日本放射線看護学会 学術推進委員会 委員.
- 3) 日本看護系大学協議会 (JANPU) 災害連携教員.
- 4) 日本放射線看護学会 第 11 回学術集会 事務局.
- 5) 日本放射線看護学会 第 11 回学術集会 企画委員.
- 6) 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 人材育成センター「第 3 回放射線看護アドバンス課程」. 講師. 2023 年 2 月 8 日.

三浦由紀子

- 1) 日本集団災害医学会. 評議員.
- 2) 第 28 回日本集団災害医学会総会・学術集会. 抄録査読委員. 2023 年 3 月開催.
- 3) 第 28 回日本集団災害医学会総会・学術集会. セッション座長. 2023 年 3 月開催.
- 4) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 隊員.
- 5) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 常設班 Emergency Medical Team Initiative 班員.
- 6) トルコ共和国地震災害支援 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 2 次隊 2023 年 2 月 23 日-3 月 8 日.
- 7) 専門職と看護. 山梨大学. 2022 年 10 月 22 日, 11 月 11 日.
- 8) 慈生会 野村病院 WOC 看護 コンサルテーション.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

林田賢史, 長田恵子, 澁澤盛子, 森脇睦子 (2022). 【座談会】データ分析に基づく看護の質改善文化の醸成 研究活動を通じた気づきを現場の実践につなげるために. 看護管理, 32 (6), 484-491.

【基礎看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

川鍋奈月，居上愛，小林優思，土井一真，山敷翔，今井淳子，三浦由紀子，堀田昇吾，高木晴良（2023）. 日本語学校に在籍する外国人の防災意識に関連する要因. 東京医療保健大学紀要, 17 (1), (in press).

Kitamura T, Suzuki M, Shigehara K, Fukuda K, Matsuyama T, Kume H (2023). Prevalence of Human Papillomavirus Types 16/18 and Effect of Vaccination among Japanese Female General Citizens in the Vaccine Crisis Era. *Viruses*, 2023 Jan 4;15(1):159. doi:10.3390/v15010159.

功刀美柚，網倉優花，伊藤智雅，大槻亜未，小林由依，清水公実子，須田優樹，田中渚彩，中澤舞衣，前川遥南，向山穂乃佳，松谷弘子，大場久美，菅野由貴子（2023）. 新型コロナウイルス感染症拡大地域における手指消毒の意識と行動の関連. 東京医療保健大学紀要, 17(1), (in press).

Matuyama (Yamagami) T, Saito M (2022). Exploratory study on Self-esteem and Reproductivity Self-assessment in Adolescents. ~ Comparison between so-called “carnivorous” and “herbivorous” youths ~, *Journal of reproductive psychology*, 8(1), 29-36.

松山（山上）妙子，齋藤益子（2022）. 青年期の性の自己評価尺度の開発，日本生殖心理学会誌, 8 (2), 14-21.

3. 学会における発表

松山妙子，齋藤益子. 青年期の性の自己評価尺度の開発. 第 63 回日本母性衛生学会学術集会, 2022 年 9 月 9 日，神戸.

齋藤益子，松山妙子，小川久貴子，加藤江里子，田所潤子，木村好秀. 中学生に対する性教育教材の開発と評価—性感染症予防教育の視点から. 第 63 回日本母性衛生学会学術集会, 2022 年 9 月 9 日，神戸.

齋藤益子，川島広江，菅井敏行，松山妙子. 生と性の教育—いのちの大切さをどう伝えるか. 第 63 回日本母性衛生学会学術集会, 2022 年 9 月 9 日，神戸.

松山妙子，三浦由紀子，藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾. シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究—看護大学 4 年生と新卒看護師の比較から—. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3 日，広島.

三浦由紀子，松山妙子，藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾. 看護基礎教育における看護技術内容の検討—新卒看護師のアンケート調査を通して—. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3・4 日，広島.

藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾，松山妙子，三浦由紀子，吉田亜希子，岩渕起江，穴戸路佳，柳橋正智，桜井礼子，福田敦子，鴫田美奈子，高見沢愛弓，大賀一郎，武下佳代，橋本佳美. 看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 4 日，広島.

齋藤益子，松山妙子，菅井敏行，川名敬，三嶋廣繁. 小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女子の保護者を対象とした HPV ワクチンに対する意識調査. 第 35 回日本性感染症学会学術大会, 2022 年 12 月 4 日，福岡.

堀田昇吾，今井淳子，高木晴良. 災害拠点病院における災害時に備えた特別治療食備蓄の実態調査. 第 28 回 日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 11 日，盛岡.

今井淳子，堀田昇吾，高木晴良. 特別治療食を必要とする慢性疾患患者の非常食備蓄に関する実態調査. 第 28 回 日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 11 日，盛岡.

小林愛弥，三輪彩乃，大久保舞，金田里香，河口渚早，河原結衣，平山千夏，宮崎藍，森夏帆，山田真央，山田真理，岩満裕子，松山妙子，片岡大己，大場久美. 聴覚障がい者のソーシャルキャピタルと災害自己効力感に関する探索的研究. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 11 日，盛岡.

田村遥海, 永井楓子, 清水里香, 瀧川樹季, 木村由希, 園田安貴子, 高橋海羽, 武川玲奈, 堤琴音, 長岡咲希, 名倉茉優, 宮崎麻由, 村上鈴香, 村野恵美, 菅野由貴子, 今井淳子, 大場久美, 松谷弘子. コロナ禍における看護大学生のレジリエンスの関連要因. 第 33 回日本医学看護学教育学会学術学会, 2023 年 3 月 11 日, 豊橋.

4. 研究助成および研究成果報告書

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 堀田昇吾. 看護基礎教育における多様な実習形態が及ぼす新卒看護師の看護実践能力と自己効力感の実態. 2022 年度学長裁量経費. 2022 年 6 月-2023 年.

松山妙子. 青年期の性の自己評価尺度 (SSAS) の信頼性と妥当性の検証. 2022 年度学長裁量経費. 2022 年 6 月-2023 年.

高木晴良, 堀田昇吾, 今井淳子. 特別治療食を必要とする人への災害時非常食支援のガイドラインの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2019 年度-2022 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

岩満裕子

- 1) 非常勤講師「医療人材管理特論」, 早稲田大学大学院, 2022年4月-7月 (前期).
- 2) 認定看護管理者セカンドレベル講師, ストレスマネジメント・タイムマネジメント, 群馬県看護協会, 2022年8月2日.
- 3) 認定看護管理者セカンドレベル講師, コンフリクトマネジメント, 国際医療福祉大学, 2022年6月25日.
- 4) 認定看護管理者ファーストレベル講師, チームマネジメント, 埼玉県看護協会, 2022年12月10日.
- 5) 認定看護管理者セカンドレベル講師, ストレスマネジメント・タイムマネジメント, 埼玉県看護協会, 2022年6月11日.
- 6) 認定看護管理者ファーストレベル講師, チームマネジメント, 埼玉医科大学, 2022年9月16日.
- 7) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程講師, リーダーシップ, 国立障害者リハビリテーションセンター, 2022年9月14日.
- 8) 東京福祉保健財団, 認定看護管理ファーストレベル講師, グループマネジメント, 2022年10月5日, 10月12日.
- 9) 公益財団法人東京都福祉保健財団. 認定看護管理者研修教育課程委員2018年より現在.

菅野由貴子

- 1) 日本クリニカルパス学会. 評議員.

松山妙子

- 1) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について (講義), 東京西徳洲会病院, 講師, 2022 年 8 月 16 日, 9 月 6 日, 9 月 27 日, 10 月 11 日, 11 月 8 日, 11 月 22 日.
- 2) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について (演習), 東京西徳洲会病院, 講師, 2022 年 9 月 13 日, 10 月 25 日, 12 月 13 日.
- 3) 公益財団法人 性の健康医学財団 南口健二記念・性の健康医学財団賞 受賞論文の講演, 2022 年 10 月 21 日.
- 4) 看護教育現場のオンラインセミナー2022 SDGs 時代の実習記録のあり方. パナソニックコネクト株式会社, 株式会社永和システムマネジメント, 株式会社 Medi-LX. 2023 年 2 月 5 日.
- 5) 日本助産診断実践学会. 常任幹事 編集委員.
- 6) 日本母子看護学会. 常任幹事 会計委員.
- 7) 日本生殖心理学会. 評議員.

- 8) 第 63 回日本母性衛生学会学術集会. プログラムワーキング委員.
- 9) NHO 埼玉病院 JMECC, インストラクター, 2022 年 6 月 19 日.
- 10)NHO 埼玉病院 ICLS 指導者養成ワークショップ, インストラクター, 2023 年 3 月 5 日.
- 11)医療法人社団 はやしだ産婦人科医院 保健指導・助産ケア コンサルテーション.

大場久美

- 1) 日本放射線看護学会第 11 回学術集会. 企画委員 2022 年より現在.
- 2)「災害時要配慮者」について, 日本災害医学会学生部会関東支部 講師, 2022年2月20日.

今井淳子

- 1) 東京都立小平南高等学校 出張講座. (株) 昭栄広報 2023 年 3 月 20 日.

片岡大己

- 1) 東京都立若葉総合高等学校 進路ガイダンス. (株) 進学教育研究社 2023 年 3 月 16 日.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 岩満裕子 (2023). ここだけ見ておく! 頻出 画像イラスト. プチナース. 2023 年 2 月号, 14-22, 照林社, 東京.
- 松山妙子 (2022). 公益財団法人 性の健康医学財団 第 12 回財団賞受賞論文発表 令和 4 年度・性の健康医学財団賞受賞論文解説, 性の健康, 21 (4), 20-26, 性の健康医学財団, 東京.
- 松山妙子 (2023). わが国で活用可能な青年期の性の自己評価尺度 SSAS の開発. 臨床助産ケア. 3・4月号, 日総研, 愛知.

【成人老年看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

- 青木和恵 (2023). 緩和ケアへの多職種に関わり 皮膚・排泄ケア認定看護師(WOC). 安井博史, 佐藤哲観編集. 静がんメソッド. 101-103, 日本医事新報社, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). CQ63 どのような医療連携がフットケアには有用か?. 日本フットケア・足病医学会. 重症化予防のための足病診療ガイドライン. 197-198, 南江堂, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). CQ64 どのような介護・福祉の社会資源を利用することがフットケアには有用か?. 日本フットケア・足病医学会. 重症化予防のための足病診療ガイドライン. 199-202, 南江堂, 東京.

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

- Satoh M, Fujimura A, Miyagawa S.(2023). Difficulties and innovations in teaching anatomy and physiology in nursing. Nurse Education in Practice. Volume67, 2023 Feb. doi : 10. 1016/ j. nepr. 103551.
- 佐藤みほ, 佐藤菜穂子, 藤村朗子. (2023), 看護系大学教員に必要とされる要件としてのコンピテンシーを追求する, 看護教育, vol. 64, 221-230, 医学書院, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). 【あなたの根拠 & 手技、今のままで大丈夫? 日常ケアの総点検】(PART1) 摘便. Expert Nurse, 38 (5), 66-69, 照林社, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). 【あなたの根拠 & 手技、今のままで大丈夫? 日常ケアの総点検】(PART2)浣腸. Expert Nurse, 38 (5), 70-73, 照林社, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). 【あなたの根拠 & 手技、今のままで大丈夫? 日常ケアの総点検】(PART3)導尿. Expert Nurse, 38 (5), 74-76, 照林社, 東京.
- 内藤亜由美 (2022). 【あなたの根拠 & 手技、今のままで大丈夫? 日常ケアの総点検】

(PART4)体圧分散寝具の使用. Expert Nurse, 38 (5), 77-79, 照林社, 東京.

内藤亜由美 (2022). 【あなたの根拠 & 手技、今のままで大丈夫? 日常ケアの総点検】
(PART5)体位変換. Expert Nurse, 38 (5), 80-82, 照林社, 東京.

内藤亜由美 (2022). 急性期褥瘡のアセスメントとケア-慢性化・重症化を防ぐために-②DTI 疑いの経過に伴う深さの評価を的確に行ったケース. 看護技術. 68 (8)40-43, メディカルフレンド社, 東京.

内藤亜由美 (2022). 急性期褥瘡のアセスメントとケア-慢性化・重症化を防ぐために-③DU と DTI 疑いの褥瘡を併せもつ多発褥瘡のケース. 看護技術, 68 (8), 44-48, メディカルフレンド社, 東京.

内藤亜由美 (2022). DESIGN-R 2020 の採点方法. 日本褥瘡学会誌, 24 (4), 357-361.

内藤亜由美 (2022). 【特集:創傷外科医が「歩行」を診るために】慢性静脈不全症患者の歩行について. 寺師浩人. 形成外科, 66 (3), 285-293.

3. 学会における発表

糸川紅子, 青木和恵, 赤木郁子, 中村正子, 新田純子. 看護基礎教育課程においてがん看護の教育は何を伝えるべきか. 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 2022 年 2 月 19 日-20 日, 神奈川県

青木和恵, 糸川紅子, 佐藤文, 田中悠美. ストーマ保有者の「セルフケア」が意味するものの変遷～年代別検討～. 第 31 回日本創傷オストミー・失禁管理学会, 2022 年 5 月 20 日-21 日, 神奈川県. (Web)

内藤亜由美, 青木和恵. 新型コロナウイルス感染症影響下における老年看護学学内実習での高齢者のスキンケア教育の工夫. 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2022 年 5 月 20-21 日, 神奈川県. (Web)

藤村朗子, 櫻井敬子, 荻田明子, 泥谷朋子. 能動的学修を目指した成人看護学演習の取り組み-4 年次生が患者役・看護師役として参画する演習の実践報告-第 32 回日本看護学教育学会学術集会, 2022 年 8 月 6-7 日. (Web)

本谷久美子, 齋藤美奈子, 大工原慈仁, 茂手木明美, 藤村朗子. 日本看護学教育学会誌臨地実習指導者が求める周手術期領域の知識項目に関するミニマム・エッセンシャルズ 回答状況の分析, 第 32 回日本看護学教育学会学術集会, 2022 年 8 月 6 日-7 日. (Web)

大工原慈仁, 本谷久美子, 藤村朗子, 齋藤美奈子, 茂手木明美. 臨地実習指導者が求める周手術期領域の知識項目に関するミニマム・エッセンシャルズ 自由記載の分析. 第 32 回日本看護学教育学会学術集会, 2022 年 8 月 6-7 日. (Web)

佐藤みほ, 藤村朗子. Web 会議システムを活用した 2 大学合同の卒業研究ゼミの実践報告, 第 32 回日本看護学教育学会学術集会, 2022 年 8 月 6-7 日. (Web)

岩淵起江, 櫻井敬子. 高齢家族が在宅介護を選択する際に生じる葛藤への退院支援に関する文献検討. 第 16 回慢性看護学会学術集会, 2022 年 8 月 20 日, 東京.

内藤亜由美. 共催セミナーつなげよう! キズを悪化させない地域包括ケア-ひとりひとりにできること-. 第 24 回日本褥瘡学会学術集会, 2022 年 8 月 27 日, 横浜.

五十嵐麻紀, 有留礼子, 内藤亜由美. 渉外・学会連携委員会 在宅医療委員会合同企画 在宅症例から抽出した問題点を徹底討論 何に困った? 何がわからない? ハイリスク患者の褥瘡予防・治療における医療と介護のつながりを考える-重症化から治癒に至った 1 症例を通して-. 第 24 回日本褥瘡学会学術集会, 2022 年 8 月 28 日, 横浜.

岩淵起江. 地域在住高齢者からみた看取りに関する話し合いの現状と課題, 第 5 回日本エンドオブライフケア学会学術集会, 2022 年 10 月 1 日, 東京.

野見山渚, 岩淵起江, 折元美雪. 避難行動要支援者の家族を対象とした災害時個別支援計画に対する認知度とソーシャル・キャピタルとの関連についての検討, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3 日, 広島.

藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 岩淵起江, 柳橋正智, 桜井礼子, 福田敦子, 鵜田美奈子, 高見沢愛弓, 大賀一郎, 武下佳代, 橋本佳美. 看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方, 第 42 回日本看

護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 4 日, 広島.

岩淵起江. 特別養護老人ホームにおける看取りについての入所者と家族・親族等との話し合いの現状, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 4 日, 広島.

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 福田敦子, 鵜田美奈子, 高見沢愛弓, 大賀一郎, 武下佳代, 橋本佳美. シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究—看護大学4年生と新卒看護師の比較から—, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 4 日, 広島.

三浦由紀子, 松山妙子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 福田敦子, 鵜田美奈子, 高見沢愛弓, 大賀一郎, 武下佳代, 橋本佳美. 看護基礎教育における看護技術内容の検討—新卒看護師のアンケート調査を通して—, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 4 日, 広島.

内藤亜由美. 教育講演 8 ナースが実践する足の創傷管理—予防的スキンケアから治療的スキンケアまで—, 第 3 回日本フットケア・足病医学会学術集会, 2023 年 2 月 12 日, 奈良.

青木和恵, 糸川紅子, 丸尾郁, 水島史乃, 櫻井和江, 佐藤明子, 武井尚子, 田中悠美, 佐藤文. WOCN が目指すストーマ保有者のセルフケア支援のエンドポイント. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会. 2023 年 2 月 24 日-25 日, 東京都.

糸川紅子, 佐藤文, 丸尾郁, 水島史乃, 櫻井和江, 佐藤明子, 武井尚子, 田中悠美, 青木和恵. ストーマ保有者のセルフケア支援における一般看護師と WOCN の連携・協働. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2023 年 2 月 24 日-25 日, 東京都.

深山優奈, 雨田琴葉, 追野真遥, 神崎瑞季, 栗原由季, 小井戸美沙斗, 小島櫻, 志村紗波, 齊藤陽菜子, 菅原萌音, 高橋里華, 寺田有芽, 林玲奈, 御子柴優楓, 櫻井敬子, 荻田明子, 泥谷朋子. COVID-19 における看護学生の実践方法の多様化と自己効力感の関連～成人・老年看護学実習を経験した学生の認識～. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 2023 年 3 月 11 日, 盛岡.

内藤亜由美. 特別講演 地域横断的活動経験から考える地域ぐるみの褥瘡対策—システムを整えること、個をみつめること—, 第 23 回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会, 2023 年 3 月 19 日, 米子.

4. 研究助成および研究成果報告書

佐藤みほ, 宮川祥子, 藤村朗子. 3D 画像と 3D プリント技術を融合した実践的な解剖学知識を高める学習システムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2018 年度-2022 年度.

佐藤みほ, 宮川祥子, 井庭 崇, 佐藤菜保子, 藤村朗子. 看護師のアセスメントプロセスの可視化に基づく AI を活用した学習支援システムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2021 年度-2024 年度.

本谷久美子, 齋藤美奈子, 大工原慈仁, 茂手木明美, 藤村朗子. 臨地実習指導者が求める周手術期領域の知識項目に関するミニマム・エッセンシャルズ—デルファイ法による調査— 2022 年度一般社団法人日本看護学教育学会研究助成.

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田省吾. 看護基礎教育における多様な実習形態が及ぼす新卒看護師のキャリアレディネスと看護実践能力の実態. 2022 年度学長裁量経費. 2022 年 6 月-2023 年.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

青木和恵

- 1) 静岡県県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程. 皮膚のアセスメントとケア. 非常勤講師. 2022 年 8 月 5 日.
- 2) 常葉大学健康科学部看護学科 緩和ケア論. 非常勤講師.
- 3) 在宅医療・地域連携. 第 24 回日本褥瘡学会学術集会. 座長. 2022 年 8 月 27 日-28 日.
- 4) 災害対策の歩み～東日本大震災からの 12 年～. 第 40 回日本ストーマリハビリテーション

- ン学会総会. 座長. 2023 年 2 月 24 日-25 日.
- 5) 教育シンポジウム 介護職へのストーリーケア教育. 第 40 回日本ストーリーリハビリテーション学会総会. 座長. 2023 年 2 月 24 日-25 日.
 - 6) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 理事.
 - 7) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 評議員選出検討委員会. 委員長.
 - 8) 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会. 理事.
 - 9) 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会広報委員会. 委員長.
 - 10) 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会ガイドライン委員会. 委員.
 - 11) 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会災害対策委員会. 委員.
 - 12) 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会あり方委員会. 委員.
 - 13) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術教育委員会. 委員.
 - 14) 日本褥瘡学会評議員.
 - 15) 日本褥瘡学会学術・教育委員会. 委員.
 - 16) 日本褥瘡学会褥瘡認定師.
 - 17) 日本がん看護学会代議員.
 - 18) 日本がん看護学会査読委員.

藤村朗子

- 1) 日本クリティカルケア看護学会. 専任査読委員. 2017 年 9 月より現在.
- 2) 日本アディクション看護学会. 査読委員. 2019 年より現在.
- 3) 日本エンドオブライフケア学会. 編集委員. 2020 年 9 月 1 日より現在.
- 4) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員, (行動医学研究部) 2019 年より現在.
- 5) 日本看護学会－急性期看護－論文選考委員. 2022 年 4 月 1 日-2023 年 3 月 31 日.
- 6) 日本救急看護学会倫理委員会. 救急看護倫理セミナー (中級)ファシリテーター 2022 年 6 月 26 日.
- 7) 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会査読委員. 2023 年 3 月-7 月.
- 8) 第 20 回日本循環器看護学会事務局長. 2022 年 4 月より現在.
- 9) 第 20 回日本循環器看護学会企画委員. 2022 年 4 月より現在.
- 10) 第 20 回日本循環器看護学会査読委員. 2023 年 3 月より現在.

内藤亜由美

- 1) 横浜市立大学客員講師.
- 2) 静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程講師.
- 3) 藤沢市民病院非常勤看護師.
- 4) 第 18 回学術集会日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 副会長.
- 5) 第 11 回学術集会国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会. 大会長.
- 6) 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会. 理事.
- 7) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 評議員.
- 8) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会学会. 学会誌編集委員.
- 9) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. ガイドライン委員.
- 10) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 在宅医療委員.
- 11) 一般社団法人日本褥瘡学会. 評議員.
- 12) 一般社団法人日本褥瘡学会. 渉外・学会連携委員.
- 13) 一般社団法人日本褥瘡学会. 在宅医療委員.
- 14) 一般社団法人日本褥瘡学会. 在宅セミナー世話人.
- 15) 一般社団法人日本褥瘡学会. 第 5 回実態調査委員.
- 16) 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会. 評議員.
- 17) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 評議員.
- 18) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 利益相反委員.

- 19) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 論文賞・研究助成選考委員.
- 20) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 幹事.
- 21) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 神奈川県支部副代表.
- 22) 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術集会プログラム委員.
- 23) 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術集会査読委員.
- 24) 日本在宅医療連合学会. 日本在宅医療連合学会在宅 NPWT 認定制度企画運営ワーキンググループ.
- 25) 令和三年度第 4 回厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発研究推進事業) 特定行為研修の修了者の活用に関する研究. 研究協力者.
- 26) 第 18 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会. 特別企画 1 プレゼンター. 2022 年 4 月 8 日.
- 27) 第 18 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会. 特別企画 2 プレゼンター. 2022 年 4 月 9 日.
- 28) 学研メディカルサポート特定行為研修区分別科目創傷関連. 褥瘡および創傷治癒と排泄管理. 2022 年 4 月 1 日.(配信)
- 29) 看護形態機能学皮膚の構造と機能. 横浜市立大学. 2022 年 4 月 18 日.
- 30) 企業共催セミナー座長. 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術. 2022 年 5 月 21 日. (Web)
- 31) 看護形態機能学皮膚の構造と機能演習. 横浜市立大学. 2022 年 5 月 27 日.
- 32) 褥瘡 WEB セミナー. 科研製薬). 2022 年 6 月 1 日. (Web)
- 33) おしりが痛い、赤い、どうしよう? -IAD の予防とケア-. 港南在宅褥瘡セミナー. 2022 年 6 月 8 日.
- 34) コロプラストオンラインセミナー静岡座長. コロプラストオンラインセミナー静岡. 2022 年 7 月 1 日-7 月 31 日. (Web)
- 35) 認定看護師教育課程創傷管理関連褥瘡の分類, アセスメント・評価. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2022 年 8 月 10 日.
- 36) 認定看護師教育課程創傷管理関連治癒のアセスメントとモニタリング. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2022 年 8 月 10 日.
- 37) 認定看護師教育課程創傷管理関連リスクアセスメント. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2022 年 8 月 10 日.
- 38) シンポジウム座長 在宅で行う褥瘡ケアの現在・未来. 第 24 回日本褥瘡学会学術集会. 2022 年 8 月 27 日.
- 39) 第 17 回褥瘡・創傷管理オンライン研修会 10 年来の静脈性下腿潰瘍を有する独居高齢者に対する在宅ケアの実践報告. 一般社団法人日本在宅医療連合学会. 2022 年 9 月 17 日. (Web)
- 40) ランチタイムセミナー座長. 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会 第 11 回学術集会. 2022 年 11 月 5 日. (Web)
- 41) 教育講演 座長. 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会 第 11 回学術集会. 2022 年 11 月 5 日. (Web)
- 42) パネルディスカッション座長. 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会 第 11 回学術集会. 2022 年 11 月 5 日. (Web)
- 43) 2022 年度臨床スキンケア看護師講習会 ハイリスク患者のスキンケア. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2022 年 11 月 11 日-12 月 9 日オンデマンド配信.
- 44) 2022 年度臨床スキンケア看護師講習会 演習. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2022 年 12 月 18 日. (Web)
- 45) 一般演題座長その他①教育・調査. 第 3 回日本フットケア・足病医学会学術集会. 2023 年 2 月 11 日.
- 46) 持田ヘルスケア株式会社 かながわスキンケア WEB セミナー座長. 2023 年 3 月 25 日. (Web)

櫻井敬子

- 1) 日本看護学会誌査読委員. 2022 年 4 月 1 日-2023 年 3 月 31 日.
- 2) 都立松ヶ谷高校 出張講義. 2022 年 10 月 20 日.

岩淵起江

- 1) 特別講義高齢者施設体験学習. 明治薬科大学特別講義. 2022 年 6 月 1 日.

折元美雪

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読者 2020 年 10 月 13 日-2024 年 9 月 30 日

泥谷朋子

- 1) 災害看護学. 筑波大学非常勤講師. 2022 年 7 月 1 日-8 月 31 日.
- 2) 日本救急看護学会. 評議員. 災害看護委員会.
- 3) 日本救急看護学会. 査読委員.
- 4) 日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナー. インストラクター.
- 5) 日本放射線看護学会. 第 11 回学術集会. 実行委員.
- 6) 日本クリティカルケア看護学会. 第 19 回学術集会. 運営委員.
- 7) 交流集会「どうしていますか？災害教育」座長. 日本救急看護学会第 24 回学術集会, 2022 年 10 月 15 日.

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

- 内藤亜由美 (2022). 高齢者のスキントラブル② スキンケア その 1. 健康すまいる, 26. 1-2.
- 内藤亜由美 (2022). 高齢者のスキントラブル② スキンケア その 1. 健康すまいる, 27. 1-2.
- 安部正敏, 水上潤哉, 内藤亜由美. (2022). ヘアケア座談会 皮膚の専門家が語る在宅療養の現状とこれからの頭皮ケア指導. Visual Dermatology, 21(8), 845-848.

【小児看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

- 久保恭子, 坂口由紀子, 宍戸路佳 (2022). 無料動画配信を使った心肺蘇生法の映像コンテンツと課題. 保育と保健, 28 (1), 13-15.
- 久保恭子, 宍戸路佳 (2022). 都内地域型保育事業に携わる保育者の応急手当の学習状況, 保育と保健, (in press).
- 宮前繁, 村田美穂, 佐々木久美子, 久保恭子 (2022). 日本災害看護学会災害看護教育活動委員会報告-2022 年度第 1 回災害看護教育セミナー開催の報告-, 日本災害看護学会誌, (in press).
- 坂口由紀子, 久保恭子, 宍戸路佳 (2022). 被災 10 年を経過した放射線被災者の子育て状況と精神健康状態. 家族保健研究会誌, 1, 2-11.
- 宍戸路佳, 久保恭子 (2022). 児童発達支援事業所における一次救命処置・災害対策の現状に関する調査. 家族保健研究会誌, 1 (1), 12-17.
- 田崎知恵子, 久保恭子, 坂口由紀子 (2022). AYA 世代を迎えた希少難病児を養育する親の移行期医療を巡る体験, 東都大学紀要, 12 (1), 1-10.

3. 学会における発表

- 日比野直子, 及川裕子, 野呂千鶴子, 久保恭子. A study of the activities of public health nurses in two major disasters in Japan, 第 25 回東アジア研究者会議, 2022 年 4 月 21 日, 台

- 北. (Web)
- 久保恭子, 坂口由紀子, 玄順烈. Needs of Families Having Children With MECP2 Duplication Syndrome Do You Know MECP2 Duplication Syndrome?, 第 25 回東アジア研究者会議, 2022 年 4 月 21 日, 台北. (Web)
- 日比野直子, 久保恭子. Caregiving by different generations to persons with severe motor and intellectual disabilities living at home, as observed by visiting nurses, ICCHNR2022, 2022 年 6 月 21 日, スウェーデン.
- 久保恭子, 坂口由紀子. ムコ多糖症児(者)と家族の在宅酵素補充療法の希望・現状と課題, 第 67 回小児保健学会, 2022 年 6 月 24 日, 三重.
- 久保恭子, 坂口由紀子. 乳幼児～学童期における遺伝性希少難病児の母親の体験と在宅支援の課題, 第 67 回小児保健学会, 2022 年 6 月 24 日, 三重.
- 玄順烈, 久保恭子. 渡航心臓移植を受けた乳幼児期の子どもの親の体験, 第 67 回小児看護学会, 2022 年 7 月 9 日 10 日, 福岡.
- 久保恭子, 宍戸路佳, 鮎沢衛. Zoom を活用した乳幼児の心肺蘇生法講座の実践報告, 第 58 回日本小児循環器学会, 2022 年 7 月 21-23 日, 札幌.
- 日比野直子, 中北裕子, 久保恭子, 野呂千鶴子 及川裕子. A 県の保健師が捉えた想定内と想定外の出来事から考える今後の保健師災害研修のあり方, 第 24 回日本災害看護学会, 2022 年 9 月 3 日, 高知. (Web)
- 中北裕子, 日比野直子, 久保恭子, 野呂千鶴子, 及川裕子. 紀伊半島大水害を経験した自治体保健師が捉える現在の地域の準備状況と課題, 第 24 回日本災害看護学会, 2022 年 9 月 3 日, 高知. (Web)
- 宍戸路佳, 久保恭子, 望月あゆみ. イラストでわかる「整備遺体」に関する災害看護学教材の作成, 第 24 回日本災害看護学会, 2022 年 9 月 3 日, 高知. (Web)
- 山村由美子, 久保恭子, 宍戸路佳. 地域型保育事業所保育者の地震対策-質問紙自由記述の分析から-, 第 24 回日本災害看護学会, 2022 年 9 月 3 日, 高知. (Web)
- 井上直子, 久保恭子. 妊娠期の e ヘルスリテラシーと健康的な生活との関連, 第 63 回日本母衛生学会, 2022 年 9 月 9 日 10 日, 神戸.
- 日比野直子, 及川裕子, 久保恭子, 野呂千鶴子 及川裕子. The roles of public health nurses who are involved in the provision and acceptance of disaster relief support in the depopulated areas in Japan, WS Improvement of nurses' roles and competencies for disaster. 7th International Nursing Research Conference of World Society of Disaster Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)
- 日比野直子, 及川裕子, 久保恭子, 野呂千鶴子, 中北裕子他. 紀伊半島大水害後から 10 年後の今の保健師が捉えた過疎地域の課題, 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)
- 久保恭子, 坂口由紀子, 玄順烈. Signs of Children with MECP2 Duplication Syndrome from Newborn Period to Infancy, 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)
- 久保恭子, 宍戸路佳, 望月あゆみ. Preparation for Disaster and Learning of First Aid among Visiting Childcare Providers in Tokyo, Improvement of nurses' roles and competencies for disaster, 7th International Nursing Research Conference of World Society of Disaster Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)
- 日比野直子, 及川裕子, 久保恭子, 野呂千鶴子, 中北裕子. Challenges in developing individualized evacuation action plans for elderly and highly medically dependent persons living in the community: A Literature review, 第 6 回日中韓看護学会, 2022 年 11 月 2-3 日, (Web)
- 及川裕子, 久保恭子, 坂口由紀子, 今井充子. 乳幼児の親の家事育児の協働状況・サポートの現状とメンタルヘルスの関係, 第 6 回日中韓看護学会, 2022 年 11 月 2-3 日, (Web)
- 有満亜希子, 久保恭子. 3 年課程看護専門学校学生の看護学実習のレディネスを把握するための教授活動-教員経験年数による教授活動の違い-, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日, 広島.

久保恭子, 日比野直子, 坂口由紀子. 地域で暮らす重症心身障がい者の親亡き後の居場所と自立支援 グループホーム職員の語りから, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日, 広島.

宍戸路佳, 久保恭子. コロナ禍で未就学児の第一子を養育する母親の妊娠・出産・子育ての状況, 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 2022 年 12 月 3-4 日, 広島.

Shishido M, Kubo K, Mochizuki A. Changes in Daily Life for Old Persons Aged 65 and Over Living in the Greater Tokyo Metropolitan Area by COVID-19 Pandemic, 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)

4. 研究助成および研究成果報告書

岸田泰子, 久保恭子. 倫理的問題を含む高度生殖医療における看護教育およびケア指針の作成. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究 (C). 2019 年度-2022 年度.

久保恭子, 宍戸路佳. 保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故の分析と予防対策プログラムの検討. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究 (挑戦的研究 萌芽). 2019 年度-2022 年度.

日比野直子, 久保恭子. 防災・減災に必要な想定外を想定する力を育てる災害教育プログラムの開発. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究 (C). 2020 年度-2022 年度.

久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子. 在宅で生活する重症心身障害児・者の親亡きあとの居場所・生活支援の移行とシームレスな自立支援モデルの検討. 在宅医療助成 勇実記念財団研究助成. 2021 年度-2024 年度.

久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子, 田崎知恵子. 在宅難病児 (者) の移行期支援とコーディネートにおける役割の明確化. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究 (C). 2022 年度-2024 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

久保恭子

- 1) 日本災害看護学会理事
- 2) 日本災害看護学会誌 査読委員
- 3) 日本小児看護学会誌 査読委員
- 4) 日本ムコ多糖症患者家族の会 顧問
- 5) NPO 法人子どもの虐待防止ネット・にいがた 理事
- 6) 大学評価委員会評価委員 主査
- 7) 立川市議会 議員対象 ヤングケアラー講師
- 8) 立川市保育園、医療的ケア児のケア支援
- 9) アロマで石鹸作り. 立川看護学部. 2022 年 8 月 25 日. 練馬区ココネリ. 2022 年 12 月 26 日.
- 10) 保育士らを対象にした感染症予防対策. 2022 年 4 月 16 日.
- 11) 保育士らを対象にした感染症予防対策 CPR AED エピペン講習会. 2022 年 12 月 22 日.
- 12) 日本ムコ多糖症患者家族の会交流会. 2022 年 8 月 20 日.
- 13) 希少難病児と家族との交流会. 2022 年 8 月 13 日.
- 14) MECP2 症候群患者家族の会員向け 月 2 回のヨガとおしゃべり広場の開催. 2021 年 10 月より現在
- 15) 東京都内における子育て家族対象のヨガおしゃべり広場. 週 1 回開催 2021 年 4 月より

現在

- 16) 練馬子育て支援センターにて妊娠期の夫婦を対象にしたヨガ. 年 2 回実施 6 月 10 日.
- 17) 東京都看護教育研究推進者養成研修講師
- 18) 東京都看護教員養成研修講師
- 19) 東京都看護専門学校研究の基礎研修の実施方法講師

穴戸路佳

- 1) アディクション看護 編集委員会 編集委員, 2022 年 4 月より現在
- 2) 子育て支援 離乳食教室. うさちゃんカフェ. 2022 年 11 月 17 日.
- 3) 子育て支援 ベビーマッサージ講師. うさちゃんカフェ. 2023 年 2 月 16 日
- 4) 練馬区子育て支援センター貫井びよびよ おしゃべり広場兼マタニティヨガ講習会講師. 2022 年 6 月 19 日.
- 5) アロマでせっけんづくり. 東京医療保健大学立川看護学部. 2022 年 8 月 25 日.
- 6) 障害者グループホーム看護部門アドバイザー兼顧問. NPO 法人グループホームとうもろろ. 2019 年 4 月より現在
- 7) 保育士らを対象にした感染症予防対策. 2022 年 4 月 16 日.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)
特になし

【母性看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

礪山あけみ, 衣川さえ子 (2022). Midwives' Training Needs for Providing Support to Japanese Childbearing Women and Family Members .Asian Journal of Human Services, 22 ,1-17.

3. 学会における発表

金子あけみ, 衣川さえ子. 大学生の認識するキャリア成熟と職業未決定の状況,医療福祉系大学と一般大学の学生との比較.日本カリキュラム学会第 33 回大会, 2022 年 7 月 9 日, 名古屋. (Web)

黒澤範子, 吉田亜希子. 豪雨災害で避難した生活者における女性特有の健康問題に関する実態.日本災害看護学会第 24 回年次大会, 2022 年 8 月 26 日-9 月 22 日, 高知. (Web)

礪山あけみ, 衣川さえ子. Parents' Perceptions of Grandparents' Involvement in Childcare: A Cross-sectional Observational Study. 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)

藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 岩渕起江, 宍戸路佳, 柳橋正智, 桜井礼子, 福田敦子, 鵜田美奈子, 高見沢愛弓, 大賀一郎, 武下佳代, 橋本佳美. 看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方(交流集会). 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3-4日, 広島.

磯山あけみ, 衣川さえ子. 乳幼児の孫を持つ祖父母の健康関連 QOL(SF-8)とその影響要因. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3-4日, 広島. (Web)

金子あけみ, 衣川さえ子. 医療系大学に在籍する学生のキャリア成熟と職業未決定の特徴. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3-4日, 広島. (Web)

4. 研究助成および研究成果報告書

磯山あけみ, 衣川さえ子. 新たな孫を迎える祖父母の家族役割機能を高める学習プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2020年度-2022年度.

黒澤範子. 母性看護学実習における学生の「自己調整学習力」を高める指導方法の検討. 2022年度学長裁量経費. 2022年6月-2023年.

吉田亜希子, 衣川さえ子. 母性看護学実習を履修する看護学生の「新生児に触れる」ことへの戸惑いとその克服. 2022年度学長裁量経費. 2022年6月-2023年.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

衣川さえ子

- 1) 令和4・5年度愛知県教務主任養成講習会. 講師. 看護教育評価, 2022年5月11-25日.

吉田亜希子

- 1) フクイ産婦人科クリニック ALSO プロバイダーコース. 群馬大学医学部附属病院主催. インストラクター. 2022年9月18-19日.
- 2) 江東病院 ALSO プロバイダーコース. PC学会主催. インストラクター. 2023年2月25-26日.
- 3) つくば ALSO プロバイダーコース. 筑波大学医学部附属病院主催. インストラクター. 2023年3月11-12日.
- 4) 群馬大学 ALSO プロバイダーコース. 群馬大学医学部附属病院主催. インストラクター. 2023年3月18-19日.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

特になし

【精神看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

小川賀恵，森千鶴(2022)．入院している統合失調症者の人生の意味の関連要因．日本看護研究学会，44 (5)，709-719.

3. 学会における発表

藤村朗子，田野将尊，堀田昇吾，松山妙子，三浦由紀子，吉田亜希子，岩渕起江，宍戸路佳，柳橋正智，桜井礼子，福田敦子，鵜田美奈子，高見沢愛弓，大賀一郎，武下佳代，橋本佳美，看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方．第42回日本看護科学学会学術集会（交流集会），2022年12月5日，広島．

日比野亮太，斎藤虎生，高橋龍佑，斎藤杏奈，米倉秀紀，磯崎莉緒，鳥越沙弥，野坂優斗，松田玲，小川賀恵，田野将尊，村松仁，サージカルマスク着用による表情認知への影響，第42回日本看護科学学会学術集会，2022年12月5日，広島．

小川賀恵，村松仁，地域で生活する精神障害者に対する災害対策支援に関する文献レビュー，第42回日本看護科学学会学術集会，2022年12月4-5日，広島．

4. 研究助成および研究成果報告書

宮島多映子，村松仁，中村朋子，土井一浩．Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用-PhaseⅢの拡大-．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究（C）．2018年度-2023年度．

小川賀恵．地域生活を送る精神疾患患者の心理的災害耐性を高める防災・発災手帳の作成．日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究．2020年度-2022年度．

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

村松仁

- 1) 東京医療保健大学立川看護学部・立川市共催公開講座．「やってみよう！自分でできるストレスマネジメント」．2022年12月10日．

小川賀恵

- 1) 東京医療保健大学立川看護学部・立川市共催公開講座．「やってみよう！自分でできるストレスマネジメント」．2022年12月10日．

6. 上記以外その他(原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等)

小川賀恵 (2022)．メディカコンクール 第112回看護師国家試験対策テスト第1回，メディカ出版，大阪．問題・解答・解説作成．

小川賀恵 (2022)．メディカコンクール 第112回看護師国家試験対策テスト第2回，メディカ出版，大阪．問題・解答・解説作成．

小川賀恵 (2022)．メディカコンクール 第112回看護師国家試験対策テスト第3回，メディカ出版，大阪．問題・解答・解説作成．

【在宅看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料)

作田裕美, 堀田昇吾, 上野寿子, 新井 龍, 桜井 礼子, 太田 勝正, 草間 朋子, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二. (2023). 「病院における放射線防護・安全教育の実態と課題-KJ 法を用いた分析から-」. 日本放射線看護学会誌, (早期公開), 1-10.

3. 学会における発表

Taylor E, Nakano R. Community-based elderly-led foot health education program:A scoping review. The 7th international Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2022 年 10 月 18-19 日, 台北. (Web)

作田 裕美, 堀田 昇吾, 上野 寿子, 新井 龍, 桜井 礼子, 太田 勝正, 草間 朋子, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二. 放射線防護・安全教育の実態と課題, 日本放射線看護学会第 11 回学術集会, 2022 年 9 月 17-18 日, 東京. (Web).

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献(学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等)

桜井 礼子

- 1) 大分県看護協会 看護管理認定看護師セカンドレベル教育課程 講師 2022 年 8 月 16 日
- 2) 日本放射線看護学会理事 2015 年 4 月より現在
- 3) 日本放射線看護学会広報・渉外委員会委員 2017 年 6 月より現在
- 4) 日本放射線看護学会 査読委員 2019 年より現在
- 5) 日本放射線看護学会第 11 回学術集会会長 2022 年 9 月 12-13 日.

テイラー 栄子

- 1) 日本在宅看護学会 査読委員
- 2) GTN 研究会 副会長
- 3) 東京医療保健大学 紀要 査読委員

村田 加奈子

- 1) 日本放射線看護学会第 11 回学術集会. 事務局・企画委員 2021 年 6 月より現在

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

特になし